721

授業科目名	**表現文化論**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講座では、表現文化の素材として《絵本》を取り上げます。ご存知のとおり、絵本は文字情報と絵画情報によって成立する複合的な表現形式です（読み聞かせという手段を選ぶと、文字情報に加えて音声情報の要素も入ってきます）。私たちは、普段、書物を文字情報中心に読んでいますが、絵画情報の読み方を確認した上で、文字と絵画双方によって形成される〈表現〉を読み解いていくことになります。両情報を確かに捉えて、絵本の持つ豊かな作品世界に出会い直しましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	絵本の特徴・形式について知ること、文字と絵によって構成される絵本の表現を正しく理解すること。	絵本・童話の物語世界を文字情報・絵画情報を手がかりに正しく読み取ることができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	作品世界の理解について討議して共有し合うこと、正しく伝達・表現しうる適切な演出を選定すること。	絵本の物語世界を理解した上で、相手を意識した討議やプレゼンテーションを行うことができる。

汎用的な力	
1. DP4.課題発見	対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。
2. DP8.意思疎通	理解した対象について、適切な形で伝達・表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
朗読・プレゼンテーション	20 %	： 個人による読み聞かせを5%、プレゼンテーションを15%とします。
ワークシート、プレゼン評価票	40 %	： 各回に提出するワークシート、プレゼン評価票の記述により、よく理解できている＝3点、概ね理解できている＝2～1点とします。
受講態度	10 %	： 各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料の整理状況（ファイル提出）により、評価します。
最終課題（定期試験）	30 %	： 与えられた設問に関する理解度と記述内容により評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊短期大学国文学研究室（編）	・『物語・教材分析と創作』第10集	・ 太陽書房	・ 2023　年

参考文献等

【参考文献】
『物語のすがた―初等国語教育・絵本と童話の教材分析―』（太陽書房、2020年）【ISBN978-4864202473】

【備考】
なお、14回の全体的な授業構成は基本的に動かないが、事例として扱う絵本は最新情報を照会しつつ変更する場合のあることをご承知おきいただきたい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜４限

場所：　西館（図書館横）５階研究室

備考・注意事項：　その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**絵本の構成要素について** 絵本を子どもだけのものとして捉えるのでなく、〈大人読み〉＝大人の読者としての楽しみ方について共通理解を持ちます。絵本の特徴や種類、構成要素を学び、絵画情報読み取りの基本技法についても確認します。	次回の学修範囲『どろんこハリー』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第2回	**絵本分析の方法―絵本『どろんこハリー』を事例として―** 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『どろんこハリー』の主題や本作品の創作時に投影された文化的な背景を捉えていきます。	次回の学修範囲『いいから いいから３』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第3回	**基礎編①／絵本『いいから いいから３』を読み解く** 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『いいから いいから３』に示される文字で語られなかった物語の結末について読み取っていきます。 ※絵本『いいから いいから３』朗読演習	次回の学修範囲『となりのせきのますだくん』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第4回	**基礎編②／絵本『となりのせきのますだくん』を読み解く** 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、文字情報で語りきれていない事柄を絵画情報が補っているさまを捉えるとともに、絵本『となりのせきのますだくん』に示された主人公の視点から見た対象の姿とその理由について読み取っていきます。 ※絵本『となりのせきのますだくん』朗読演習	次回の学修範囲『やさいのがっこう とまとちゃんのたびだち』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第5回	**基礎編③／絵本『やさいのがっこう とまとちゃんのたびだち』を読み解く** 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『やさいのがっこう とまとちゃんのたびだち』の主人公と仲間たちとのすれ違いや触れ合いを追いながら、物語の構造・主題を捉えていきます。 ※絵本『やさいのがっこう とまとちゃんのたびだち』朗読演習	次回の学修範囲『街どろぼう』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第6回	**基礎編④／絵本『街どろぼう』を読み解く** 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『街どろぼう』について、文字・絵画情報を照らし合わせながら物語の仕掛けや構造を読み解いていきます。 ※絵本『街どろぼう』朗読演習	次回の学修範囲『わすれられないおくりもの』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第7回	**〈大人読み〉応用編①／絵本『わすれられないおくりもの』の作品世界** 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『わすれられないおくりもの』の主題や構造、補い合う文字・絵画情報を押さえながら捉えていきます。 ※絵本『わすれられないおくりもの』朗読演習	次回の学修範囲『ラチとらいおん』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第8回	**〈大人読み〉応用編②／絵本『ラチとらいおん』の作品世界**	次回の学修範囲『ぼくだけのこと』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間

	文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『ラチとらいおん』の主人公の成長と、それを促す〈らいおん〉がいかなる存在であったのかについて考察していきます。 ※絵本『ラチとらいおん』朗読演習		
第9回	**〈大人読み〉応用編③／絵本『ぼくだけのこと』の作品世界** 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『ぼくだけのこと』の物語世界に描かれた語り手の交代をおさえつつ、作品世界が徐々に広がっていくさまを捉えていきます。 ※絵本『ぼくだけのこと』朗読演習	次回の学修範囲『しろくまちゃんのほっとけーき』を読み進めておく。何度も音読してスムーズに読めるようにする。	4時間
第10回	**課題編①／絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』をどう読み解くか** ワークシートを用いて、文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』の読解に取り組みます。（グループ討論） ※絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』朗読演習	次時の演習に備え、お薦めの絵本を各自１冊選書し、朗読の練習を繰り返し行う。	4時間
第11回	**課題編②／絵本プレゼンテーションの準備作業** 各自が持ち寄った絵本について、作品世界の読解とプレゼンテーションの準備作業を行う。	次時に備え、各自でプレゼン練習を繰り返し行う。	4時間
第12回	**課題編③／絵本紹介プレゼンテーション（１）２～３歳児対象絵本** 担当者による絵本紹介のプレゼンテーションを行う。聞き手はそれぞれのプレゼンテーションの審査票を記入する。	次時に備え、グループでのプレゼン練習を繰り返し行う。本時にプレゼンを終えたグループは、反省レポートを各自で執筆する。	4時間
第13回	**課題編④／絵本紹介プレゼンテーション（２）４～５歳児対象絵本** 担当者による絵本紹介のプレゼンテーションを行う。聞き手はそれぞれのプレゼンテーションの審査票を記入する。	次時の討議に備え、これまでの講義内容について各自で振り返りをしておく。本時にプレゼンを終えたグループは、反省レポートを各自で執筆する。	4時間
第14回	**〈大人読み〉と〈子ども読み〉のはざまで―絵本とどのように付き合っていくか―** 絵本に対する大人の反応や読解と、子どもの反応や読解との差異について改めて確認するとともに、今後、大人として絵本世界とどのように付き合っていくことが可能か、考察および討議を行う。	最終課題（定期試験）に向けてこれまでの講義内容について各自で振り返りを行う。	4時間

721

授業科目名	Oral Communication I				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、英語力の基礎となる文法事項を整理して学び直し、これまで知識として身につけていた英文法をコミュニケーションで使える道具に転換することを目的とします。毎回の授業では、平易な例文で英文法の知識を整理し、かつ実際の英会話の場面を想定した発話練習を繰り返すことによって、知識を定着させます。また、ペアワーク、グループワークを多く盛り込むことによって、協働して課題に取り組む姿勢を育成します。最終的には、日常生活を送る上で必要とされる必要最低限の英会話力を身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日常生活を送る上で必要とされる英会話能力、英文読解・聴解能力	日常生活において、最低限のことは英語で会話することができる。また、英語で伝えられる情報を読解・聴解することができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
多読	20 %	:	ブックリポートを評価します。
Review Quiz	20 %	:	第14回の授業で、既習単元の理解度を確認するReview Quizを実施します。そのReview Quizの結果を評価の20%とします。
レポート課題	30 %	:	特別授業の事前準備、事後報告を評価するためのレポート課題を課します。語彙力、表現力、思考力と特別授業に臨む姿勢について評価します。
定期試験	30 %	:	試験期間中に既習単元を基にした実力テストを実施して、その結果を評価の30%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

Hiromi Akimoto, Mayumi Hamada ・ Grammar Network ・ Cengage Learning ・ 2019 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前

場所： 授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション・ 多読とは何か・Just one bottle of orange juice（名詞の理解）** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・多読の説明。 ・多読に取り組み、日本語を介さずに、英語を英語のまま理解することを体験します。 ・今後、多読を続けていくための、多読レポート（今後継続）の取り組みについて理解します。 ・図書館での多読利用について説明します。 ・名詞の概念をりかいします。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第２回	**I major in business（be動詞・一般動詞）** ・be動詞と一般動詞の違いについて理解します。 ・他動詞と自動詞について理解します。 ・動詞を用いて、自己について語ります。	第2回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくるわからない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第３回	**I major in business（自己紹介）** ・英語での自己紹介を行います。 ・互いにフィードバックを与え、適切な動詞が使用できているか確認します。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第４回	**Only on special occasions（前置詞）** ・前置詞の基本的な用法を整理して、身の回りの出来事について英語で説明できるように練習します。 ・一日の起こった出来事について英語日記を作成します。	第4回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第５回	**I want to buy T-shirts or caps（接続詞）** ・接続詞の基本的な用法を整理して、身の回りに起きた出来事を順序立てて英語で説明できるように練習します。	第5回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第６回	**I want to buy T-shirts or caps（接続詞を用いて表現する）** ・適切な接続詞を用いて、物語の流れや物事の手順説明を理解する。	第6回 で学習した単語・表現を復習する。特別授業の事前準備をしておきます。	2時間
第７回	**I’m checking a flight schedule（時制①：現在形と現在進行形）** ・現在時制の基本的な用法を整理して、今まさに進行中の動作と習慣的行動について英語で説明できるように練習します。	第7回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第８回	**I’m checking a flight schedule（時制①：スケジュール作成）** ・頻度を表す副詞を用いて、自分自身の一週間のスケジュールを英語で作成します。	第8回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第９回	**He led a huge march in Washington, D.C.（時制②：過去形と現在完了形）** ・過去時制と完了時制の基本的な用法を整理して、過去の出来事について英語で説明できるように練習します。	第9回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第10回	**He led a huge march in Washington, D.C.（時制②：過去の自分について書く）**	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間

	・過去時制と完了時制を使い分けて、自分のこれまでを振り返り、パーソナルヒストリーを英語で作成します。		
第11回	**What are you going to do?（時制③：未来形）** ・未来時制の基本的な用法を整理して、これから起こることについて英語で説明できるように練習します。	第11回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第12回	**What are you going to do?（時制③：予定を立てよう）** ・未来時制の表現を用いて、自分の１週間や、放課後の予定を作成します。	第12回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第13回	**I got fascinated with the beauty of the town（受動態）** ・受動態の基本的な用法を整理して、様々な状況を英語で描写できるように練習します。	第13回 で学習した単語・表現を復習する。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第14回	**My hobby is playing sports（動名詞）** ・動名詞の基本的な用法を整理して、自分の好きなことについて言えるように練習します。	1回～14回までに学んだ単元を復習し、テストに備える。	2時間

721

授業科目名	文章表現法				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「文は人なり」という言葉があるように、文章には書き手の人柄や息づかいのようなものが現れてきます。
本講座では、文章執筆（作文）の演習を重ねながら、表現内容はもとより、それを音声化する場合の表情や所作まで含め、的確に想いや主張を伝える技術と、曖昧であった自身の想いに形を与えていく楽しさを味わってほしいと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	様々な形式の文章の実作を通して、書くことに対する苦手意識をなくし、表現する楽しさを味わえること。	様々な形式の文章について理解し、実際に作文することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		対象となる事物について理解し、課題を見つけることができる。
2. DP8.意思疎通		自身の想いや意見を的確に相手へ伝えられるよう表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
作文課題	60 %	： 10回程度の作文課題を課し、３段階で評価します。評価基準については、講義時に提示。
受講態度	10 %	： 授業時の発言や班活動への参加態度、課題に取り組む姿勢などを評価します。全講義終了後の演習ノート提出を含みます。
最終課題（定期試験）	30 %	： 規定時間内（60分間）に資料を読んで仕上げた最終課題の内容により３段階で評価します。評価基準については、講義時に提示。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
坂東実子	・ 大学生のための文章表現練習帳　第２版	・ 国書刊行会	・ 2021　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 西館（図書館横）５階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**《身だしなみ》としての文章表現** なぜ「文は人なり」と言われるのか、文章構成のポイント、文章表現のコツなどについて確認し、共通理解を持つとともに、原稿用紙の使い方について再確認します。	講義時の作文課題（名前作文）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第2回	**ことばのドリル** 常体文と敬体文の相互変換、くだけた文と整った文の相互変換、箇条書きの文章化と文章の箇条書き化、まわりくどい文章の簡潔化など、例文を用いたドリル学習を行います。	講義時の課題（ことばドリル）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第3回	**紹介文（１）―私の好きなもの―** 敬体文を用いて物事を紹介する文章を、文章設計図に基づきながら４段構成で書く演習に取り組みます。	講義時の作文課題（私の好きなもの）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第4回	**紹介文（２）―私の故郷―** 敬体文を用いて出身者だからこそ語れる故郷の紹介文を、文章設計図に基づきながら４段構成で書く演習に取り組みます。	講義時の作文課題（私の故郷）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第5回	**賛成・反対の意見文（１）―「身近な問題」をテーマに―** 常体文を用いつつ、身近な問題で賛否両論のある物事に対し、自分の立場を明らかにした上で意見を書く演習に取り組みます。「Yes、But」という論理展開を学びます。	講義時の作文課題（意見文）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第6回	**好印象写真・悪印象写真に挑戦する** 表情・被服行動などが他者に与える印象について踏まえつつ、グループで好印象写真・悪印象写真の撮影に取り組みます（グループ活動）。次時の講義開始の際、課題提出用シートに写真貼付・報告文執筆のうえで提出します。	課題提出用シートに好印象写真・悪印象写真をそれぞれ１枚ずつ貼付し、シートの指示に従い、コメントを記述する。	4時間
第7回	**賛成・反対の意見文（２）―「社会的な問題」をテーマに―** 常体文を用いつつ、社会的な問題で賛否両論のある物事に対し、資料を踏まえながら反対意見への対策や提案を書く演習に取り組みます。第5回の「Yes、But」という論理展開を活用します。	講義時の作文課題（意見文）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第8回	**賛成・反対の意見文（応用篇・グループワーク）** 新聞・雑誌の記事をもとに、グループディスカッションを行い、ディベート立論を３段構成で組み立てる演習に取り組みます。	講義時の作文課題（意見文）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第9回	**before／after の文章（１）―〇〇をする前と後―** 何かをきっかけに自分自身が大きく変わったことをテーマとして、５段構成で「変わる前の自分」と「変わった自分」を対比的に書いて伝える演習に取り組みます。	講義時の作文課題（before／after文）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第10回	**before／after の文章（２）―〇〇ができる前と後―** 何かをきっかけに社会や環境が大きく変わったことをテーマとして、資料を用いながら、５段構成で社会・環境が「変わる前の状況」と「変わった後の状況」を対比的に書いて伝える演習に取り組みます。	講義時の作文課題（before／after文）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第11回	**対立項と時間軸のある文章―調査年度の異なる統計資料を読んで―** 2002年から2018年にわたる期間の大きな出来事の中から変化の著しい点を見つけ、具体的データより必要な数値を抽出した上で整理・比較・考察を書く演習に取り組みます。	講義時の作文課題（資料分析文）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第12回	**before／after の文章（応用編）―レポートの準備・構成・書き方―** 基本的なレポートの構成を確認した上で、（第9回・第10回の演習を活かしつつ）グループワークでテーマを選んで「問題提起」→「調査」→「考察」の討議を行い、その成果をレポートとして文章化する演習に取り組みます。	講義時の作文課題（before／afterレポート）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間

第13回	**敬語のドリル** 敬語の分類、敬語動詞一覧で基本的な知識を確認した上で、尊敬語・謙譲語を用いた文章に関するドリル学習を行います。バイト敬語のチェック、礼状などの手紙文の事例にも触れ、さらにグループワークとして敬語の会話文を用いた寸劇の実演に取り組みます。	講義時の課題（敬語ドリル）が仕上がっていない場合は、完成させる。	4時間
第14回	**全体のまとめと最終課題（定期試験）の提示** これまで取り組んできた演習課題の総評を示し、私たちにとって文章表現とは何か捉え返していきます。また、最終課題（定期試験）の範囲となる資料等を配布し、読み合わせをおこなった上で、試験の論題や分量および評価項目について指示します。	半期の取り組みについて振り返り、最終課題（定期試験）に備える。	4時間

721

授業科目名	**音声表現法**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちのコミュニケーションは言語的要素と非言語的な要素によって成り立ちますが、前者を支える柱のひとつが〈音声表現〉にほかなりません。音声表現をしっかり操作できれば、自身の様々な感情をより豊かに伝えることもできるはずです。
本講座では、発声法や間の取り方から始めて、様々な文章（文字情報も言語的な要素）や様々な場面における音声表現に取り組んでいきます。文字情報を介しての音読・朗読、台詞読み、群読など、感情を巧みに操りつつ表現を楽しむことが目標です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	対象をしっかり読み取る（理解する）こと、聞き手に合わせて的確な表現の仕方を選定すること。	提示する事柄・内容を正確に理解した上で、適切な表現方法を選んで伝えることができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		自身の伝えるべき事柄を明確に認識し、適切な方法で表現・伝達することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
音声表現にかかわる課題の実演	30 %	： 絵本の読み聞かせ実演（第８回＝10点）と、漫才・落語実演（第13回＝20点）について、５段階で評価を行います。評価規準については、講義時に提示。
音声表現にかかわる課題の実演	30 %	： 上記以外の回については、１～５点の範囲で個人・班・全体による短い実演を行います。ただし、評価対象の実演がない回もあります。
振り返りシート	30 %	： 各回に提出する振り返りシートの記述により、よく理解できている＝2点、概ね理解できている＝1点とします。
最終課題（定期試験）	10 %	： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

早川直記『自分の声が好きになる！心を揺さぶる声の作り方』ソーテック社、2021年【ISBN978-4800720948】

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 西館（図書館横）５階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**音声表現とは何か** 〈音声表現〉についての共通認識を持つことから始めます。第１回は、様々な文章を身体的には無表情な状態を保ったまま、音声的に様々な感情を表現することに取り組みます。無表情なまま声だけは大喜びしているとか、無表情なのに激しく怒っているとか、無表情のまま号泣しているとか、無表情で大爆笑しているとか。感情をリアルに表現しようとすると、顔の表情や体の動きが連動していることに気づく作業でもあります。	次時の音読演習に備え、配布された昔話のプリントの音読練習を繰り返し行う。	4時間
第2回	**音読①／昔話―声に出して読んでみる―** まずは、ただ声を出して読んでみるという段階です。ひとつの物語を、大きな―小さな声で、高い―低い声で、速い―遅いテンポで、あるいは喜怒哀楽いずれかの一本調子で、通読に取り組みます。	次時の音読演習に備え、配布された詩のプリントの音読練習を繰り返し行う。	4時間
第3回	**音読②／詩のことば―声に出して読んでみる―** 今回はいくつかの詩を選んで、前回と同様の演習に取り組みます。	次時の音読演習に備え、配布された新聞記事のプリントの音読練習を繰り返し行う。	4時間
第4回	**音読③／ニュースのことば―声に出して読んでみる―** 標準語と方言の差異について踏まえた上で、アナウンサーになったつもりでニュース（新聞記事・マンガの台詞・舞台劇の台詞）を読む演習を行います。	次時の読み聞かせ演習に備え、配布された絵本本文のプリントの音読練習を繰り返し行う。	4時間
第5回	**読み聞かせ①／擬音語・擬態語のみの絵本** 次は、誰かに読んで聞かせるという段階です。読み聞かせの基本的な技術について理解した上で、擬音語・擬態語（オノマトペと呼びます）のみで展開する絵本を、最初は淡々と読み、続いて様々な感情をつけながら読み聞かせる作業に取り組みます。	次時の読み聞かせ演習に備え、配布された絵本の本文プリントの音読練習を繰り返し行う。	4時間
第6回	**読み聞かせ②／物語絵本** 物語絵本を、前回と同様、最初は淡々と読み、続いて様々な感情をつけながら読み聞かせる作業に取り組みます。	次時の読み聞かせ演習に備え、自身で１冊の絵本を選定し、読み聞かせ練習を繰り返し行う。	4時間
第7回	**読み聞かせ③／各自の選書による絵本（物語絵本）** 各自が選書した絵本を用いて、自身が最適であると判断したやり方で読み聞かせを実演します。	次時の読み聞かせ演習に備え、自身で１冊の絵本を選定し、読み聞かせ練習を繰り返し行う。	4時間
第8回	**読み聞かせ④／各自の選書による絵本（知育絵本）** 各自が選書した絵本を用いて、自身が最適であると判断したやり方で読み聞かせを実演します。	次時の朗読演習に備え、配布された詩のプリントの音読練習を繰り返し行う。	4時間
第9回	**朗読・群読／詩のことば** 音読と朗読の違いや群読について理解します。その上で、いくつかの詩について内容理解の討議を行い、朗読・群読に取り組みます。	次時の発話演習に備え、自己紹介と友人とのエピソードを作文した上でしっかりと覚え、３分間の音読練習を繰り返し行う。	4時間
第10回	**発話①／自己紹介、スピーチ** 結婚披露宴に招待された友人代表という設定で、自己紹介および結婚する友人とのエピソードを含む３分間スピーチに取り組みます。（ペア演習）	次時の発話演習に備え、配布された脚本をしっかりと覚え、どの役でも演じられるように音読練習を繰り返し行う。	4時間
第11回	**発話②／演劇のことば―対話劇** 日常のことばと演劇のことばの違いについて理解した上で、身体所作はつけず音声表現のみで対話劇を実演します。（グループ演習）	次時の発話演習に備え、配布された脚本をしっかりと覚え、自身で所作や言い回しを工夫しながら音読練習を繰り返し行う。	4時間

第12回	**発話③／演芸のことば―落語・漫才１（演習）** 対話相手不在という条件のもと、あたかも相手と対話しているかのように、適宜、身体所作を交えながら一人語りの実演（３分間）に取り組みます。	次時の発話演習に備え、自身あるいはペアで１つの落語・漫才の演目を選定し、所作や言い回しを工夫しながら練習を繰り返し行う。	4時間
第13回	**発話④／演芸のことば―落語・漫才２（実演）** 各自で選択した３分程度の落語・漫才の演目を、身体所作も含めて完全コピーする形で実演に取り組みます。	次時の討議および最終課題（定期試験）に向けて、これまでの演習の振り返りを行う。	4時間
第14回	**よりよきコミュニケーション技術としての音声表現** これまでの演習を踏まえ、〈音声表現〉の意義や日常生活における有効活用について、全員で総括（問題点の整理と方向性の確認）の討議を行います。	提示された論題にしたがい、最終課題（定期試験）を執筆する。	4時間

721

授業科目名	**基礎発声法Ⅰ**				
担当教員名	**葛城 七穂**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。 専門学校・声優養成所の講師を担当。（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

日常生活においてあたり前のように使用している日本語。その日本語を美しく、はっきりと聞き取りやすいものと意識することによって、よりよいコミュニケーションが可能となります。実際に声を出して体感しながら、声に意識を向けることを身につけていきます。
声優トライの一環としての授業となるため、演劇的なアプローチが中心となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	音声表現の為の発声、滑舌の知識と技術。	発声の基礎知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		他者へどのように伝わっているのか、自分を客観的にみる事ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内課題の実演	40 %	:	課題に対し、どれだけ積極的に取り組めているか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30 %	:	授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組めているか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30 %	:	授業で学んだ事をどれだけ理解し、身についているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション<言葉を意識する>** 授業概要の説明。 発声練習。 言葉を発することによるコミュニケーションを考える。	普段の自分の声・話し方・表情を意識してみる。	4時間
第2回	**五十音・腹式発声** 五十音、及び北原白秋の『五十音歌』を使用し、発声をしてみる。 自身の姿勢・歩き方を確認する。	五十音歌の練習。普段の姿勢・歩き方を意識する。	4時間
第3回	**調音　『ア・カ』行** 『ア・カ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲①での実践。	今回の復習。テキスト以外の『ア・カ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第4回	**調音　濁音・鼻濁音** 濁音・鼻濁音の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲①での実践。	今回の復習。テキスト以外の濁音・鼻濁音も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第5回	**調音　『サ・ザ』行** 『サ・ザ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲①での実践。	今回の復習。テキスト以外の『サ・ザ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第6回	**調音　『タ・ダ・ナ』行** 『タ・ダ・ナ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲②での実践。	今回の復習。テキスト以外の『タ・ダ・ナ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第7回	**調音　『ハ・パ・バ』行** 『ハ・パ・バ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲②での実践。	今回の復習。テキスト以外の『ハ・パ・バ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第8回	**調音　『マ・ヤ』行** 『マ・ヤ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲②での実践。	今回の復習。テキスト以外の『マ・ヤ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第9回	**調音　『ラ・ワ』行** 『ラ・ワ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲③での実践。	今回の復習。テキスト以外の『ラ・ワ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第10回	**母音の無声化** 母音が無声化する例を確認する。 戯曲③での実践。	普段の自分の生活で使用している言葉の中で、無声化するべき言葉を意識してみる。	4時間
第11回	**撥音・拗音・促音・長音** 撥音・拗音・促音・長音の例を確認する。 戯曲③での実践。	今回の復習。生活の中で撥音・拗音・促音・長音を意識してみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第12回	**子音** 子音の練習。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲④での実践。	今回の復習。生活の中で子音を意識してみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第13回	**アクセント** 標準語のアクセントを意識する。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲④での実践。	今回の復習。標準語のアクセントを意識した会話の時間を作ってみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第14回	**リズム**	今回の復習。リズム・テンポをコントロールする練習をする。	4時間

言葉のリズム・テンポを意識する。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。 戯曲④での実践。		

721

授業科目名	**コンピュータ基礎**				
担当教員名	**田中 哲平**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会で求められるコンピュータの扱いを身に付けるとともに，インターネットリテラシーやインターネットを用いた検索手法などについて学ぶ。特にWindowsの基本的操作に加え，Office系ソフトであるWordを用いた文書作成，Excelを用いたデータ管理とその表現，PowerPointを用いた発表資料作成を中心に学ぶ。さらに，SNSを含めたインターネットリテラシーや，インターネットを用いた学術的検索手法，メールのやり取り，タッチタイピングなどについても学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	コンピュータに関連するスキル	ワードプロセッサ，表計算ソフト，プレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		分かりやすい文書や発表資料が作成できる。
2. DP4.課題発見		データ管理のために，表やグラフを作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	28 %	： 授業中に指示する作業を提出する（2点×14回=28点）
演習課題	30 %	： Word，Excel，PowerPoint を用いた演習課題を完成する（10点×3回=30点）
最終課題（期末レポート）	42 %	： WordおよびExcelを用いて修学旅行のしおりを作成し，総合的なレポートを完成する（42点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 西館5F研究室

備考・注意事項： メールでアポイントメントを取り、質問などを受け付ける。
メールには必ず学籍番号と名前、希望する時間帯を必ず入れること。
tanaka-te@g.osaka.seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**インターネットリテラシーと学内PCの操作** 授業の目的，内容，評価について確認を行い，学内PCの基本的操作方法について学ぶ。インターネットリテラシーを身につける。	ポータルシステムにログインし，履修状況を確認する。	4時間
第2回	**インターネット検索とタッチタイピング** インターネットを用いた検索方法について学びながら，著作権への意識を高める。また文字入力（タッチタイピング）の練習を行う。	eメールの送信，タッチタイピングの練習	4時間
第3回	**Word入門** Wordに関する基礎知識を学び，文字入力や変換，様々なショートカットについて学ぶ。	Wordでの文書作成	4時間
第4回	**Wordを用いた文章作成** Wordの文書作成機能，校正機能や表について学ぶ。	Wordでの文書作成	4時間
第5回	**Wordを用いた画像処理** Wordを用いたレポート作成方法，画像などの挿入方法を学ぶ。	Wordの練習や例題に取り組む	4時間
第6回	**PowerPoint入門** PowerPointの基礎知識を学ぶ。	PowerPointの練習や例題に取り組む。	4時間
第7回	**プレゼンテーション入門** PowerPointを用いたプレゼンテーションについて学ぶ。	PowerPointの練習や例題に取り組み，プレゼンテーションの準備を行う。	4時間
第8回	**プレゼンテーション実習（1）（グループ１）** PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い，他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備	4時間
第9回	**プレゼンテーション実習（2）（グループ２）** PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い，他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備と振り返り	4時間
第10回	**Excel入門** Excelの基礎知識を学び，データ入力の方法を身に付ける。	Excelの練習や例題に取り組む。	4時間
第11回	**Excelを用いた関数と表作成** Excelを用いた簡単な関数を理解し，表の作成方法を学ぶ。	Excelの練習や例題に取り組む。	4時間
第12回	**Excelを用いたグラフ作成** Excelを用いたグラフの作成方法を学ぶ。	Excelの練習や例題に取り組む。	4時間
第13回	**まとめ** これまでのWord，Excel，PowerPoint の振り返りを行い，最終課題（修学旅行のしおり）に関する説明を行う。それに基づき提出課題の準備をすすめる。	課題作成の準備	4時間
第14回	**課題演習** 最終課題（修学旅行のしおり）を実際に作成する作業を行う。	講義資料の復習。	4時間

721

授業科目名	**中級日本語Ⅰ**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目は留学生・帰国子女を対象に開講するもので、授業では以下の３点を重点に学びます。１．言葉をよく覚え、文型を繰り返し練習します。２．会話の練習を十分に行います。３．テープ・ＣＤを何度も聞き、日本語の音に慣れるよう、反復練習をします。
また、短大での授業に必要な聴力および文章力をつけるための課題を出します。そのほか、日本語でのプレゼンテーションの方法や、振り返りシートやレポートの書き方についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本語に関する知識	短大での授業を理解し、日本語で自分の意見をまとめ、発表することができる。
汎用的な力		
1. DP7.完遂		日本語力を高めることができる。
2. DP8.意思疎通		日本語でのコミュニケーション能力を高めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題１：会話発表	32 %	： テーマごとの会話発表をひとり５回行い、独自のルーブリックで評価します。４点×８回
授業内課題２：提出物	28 %	： 毎回の授業で振り返りシートを配布し、それを評価します。２点×１４回
定期試験（期末レポート）	20 %	： 授業内で扱った内容を対象にしたレポート課題を出します。独自のルーブリックで評価します。
受講態度	20 %	： 授業内での積極性および取り組み状況を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１』（友松悦子・福島佐知・中村かおり著、スリーエーネットワーク、2011年）【ISBN978-4883195640】

『新完全マスター読解　日本語能力試験N１』（福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ著、スリーエーネットワーク、2011年）【ISBN978-4883195718】

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　西館（図書館横）５階研究室

備考・注意事項：　その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**会話：自己紹介** 自己紹介の仕方と、それを通して日本での礼儀や挨拶に関する日本語の表現を学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第2回	**会話：デパートなどの街中での会話** 買い物などの場面を想定し、そこでの会話について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第3回	**会話：電車に乗る　映画に行く** 電車の乗り方・行き先についての聞き方・電車での日本のマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第4回	**会話：日本のお宅を訪問する** 日本のお宅を訪問するときの場面を想定して、そこでの挨拶・所作など日本文化のあり方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第5回	**会話：病気　道を聞く** 病院へ行ったことを想定して、ドキドキなどの擬音語や病名について。また道を聞く聞き方と「はすかい」や、京都の「上ル・下ル」などの独特の表現について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第6回	**会話：銀行・郵便局で　旅行** 銀行や郵便局、旅行での会話について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第7回	**会話：電話での会話** 「もしもし」などの電話での会話のあり方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第8回	**会話：レストラン・寿司屋へ行く** レストランでの会話とメニューについて・寿司屋をいう日本文化への理解と魚の名前について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第9回	**会話：見学** どこかを見学に行ったことを想定して、そこでの会話とマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第10回	**会話：訪問　パーティー** 日本でのパーティーなどを含めた会食での会話とそこでのマナーについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第11回	**会話：日本語の学修１「衣食住」に関して** 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第12回	**会話：日本語の学修２「娯楽」に関して** 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第13回	**会話：日本語の学修３「地理」に関して** 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第14回	**会話：日本語の学修４「社会」に関して** 各自が日本語・日本の文化について疑問に思ったり、よく分からないことを持ち寄り、ディベート形式で自分の意見や考えを述べる練習をします。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

721

授業科目名	**中級日本語Ⅱ**				
担当教員名	**浅野 法子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業は留学生・帰国子女を対象に開講するもので、長文を正しく読解することを目的とします。新聞記事や雑誌記事等を題材として、語彙を増やし、日本語の独特な表現について学びます。さらに、授業で扱った記事に関する自分の意見をまとめたり、グループで意見交換を行うことで、内容の理解を深めます。
また、大学での授業に必要な聴力および文章力をつけるための課題を出します。そのほか、日本語でのプレゼンテーションの方法や、振り返りシートやレポートの書き方についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本語に関する知識	大学での授業を理解し、日本語で自分の意見をまとめ、発表することができる
汎用的な力		
1. DP7.完遂		日本語力を高めることができる
2. DP8.意思疎通		日本語でのコミュニケーション能力を高めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題１：会話発表	30 ％	： テーマごとの会話発表をひとり５回行い、独自のルーブリックで評価します。６点×５回
授業内課題２：提出物	30 ％	： 毎回の授業で小テストを行い、評価します。２点×１４回＋加点
授業外レポート	20 ％	： 授業内で扱った内容を対象にしたレポート課題を出します。独自のルーブリックで評価します。
受講態度	20 ％	： 授業内での積極性および取り組み状況を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**新聞記事を読む：国内関連** キーワードをまとめて、論点をつかむ練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第2回	**新聞記事を読む：国際関連** 論点をつかみ、結論をおさえる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第3回	**新聞記事を読む：社会・文化** 執筆者の立場を読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第4回	**新聞記事を読む：コラム・特集記事** 論点を簡潔にまとめる方法を学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第5回	**論点を絞った意見交換** 関心のある新聞記事について、自分の意見をまとめます。 それをクラスで発表し、意見交換を行います。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第6回	**雑誌記事を読む：国内関連** 文章を整理して理解する練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第7回	**雑誌記事を読む：国際関連** できるだけ速く、正確に読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第8回	**雑誌記事を読む：社会・文化** 内容を正確に把握し、自分の言葉で説明する練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第9回	**雑誌記事を読む：スポーツ** さまざまなジャンルの記事を、時間内にできるだけ多く読み取る練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第10回	**論点を絞った意見交換** 関心のある雑誌記事について、自分の意見をまとめます。 それをクラスで発表し、意見交換を行います。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第11回	**評論文を読む：キーワードを読み取る** 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第12回	**評論文を読む：接続詞に注意する** 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第13回	**評論文を読む：論点をつかむ** 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	4時間
第14回	**評論文を読む：結論をおさえる、及び授業のまとめ** 内容を正確に読み取り、簡潔にまとめる練習をします。 日本語でのレポートの書き方の復習をして、この授業のまとめをします。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	4時間

721

授業科目名	**基礎発声法Ⅱ**				
担当教員名	**葛城 七穂**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。 専門学校・声優養成所の講師を担当。（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

日常生活においてあたり前のように使用している日本語。その日本語を美しく、はっきりと聞き取りやすいものと意識することによって、よりよいコミュニケーションが可能となります。
身体全体を使って発声・表現をしていくことにより、更に豊かな表現力を身につけていきます。
表現する向こう側にいる聞き手を意識し、聞き手を楽しませる為にまず自分達が楽しんで取り組めるようにしていきます。
声優トライの一環として、より演劇的なアプローチの授業となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	音声表現の為の滑舌・発声。身体も使った表現が音声での表現にも繋がると考え、様々なパフォーマンスからアプローチする。	音声表現の為に、自在に操れる柔軟性を目指す。

汎用的な力	
1. DP6.行動・実践	他者へ向けての表現力がより豊かになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題の実演	40 %	： 課題に対し、どれだけ積極的に取り組めているか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30 %	： 授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組めているか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30 %	： 授業で学んだ事をどれだけ理解し、身についているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**会話劇①　滑舌** 会話劇を用いて言葉の聞き取りやすさ・滑舌を確認する。	今回の復習。セリフを覚える。	4時間
第2回	**会話劇②　距離感** 会話劇を用いて、言葉の距離感を身につける。	今回の復習。	4時間
第3回	**会話劇③　声の表情** 会話劇を用いて、声の表情で表現することを意識する。	今回の復習。声の色を考える。	4時間
第4回	**動作エチュード** 動作ひとつで他人にどう伝わるのか、伝える為には何を意識するのか考える。	今回の復習。他人から見た自分を意識する。	4時間
第5回	**一言エチュード** 決められた一言で様々な背景を考え、表現力を膨らませる。	今回の復習。同じ言葉でも背景によって意味が広がることを意識する。	4時間
第6回	**モノローグ『喜』『楽』** モノローグで『喜怒哀楽』の『喜・楽』に重点をおき表現してみる。	今回の復習。喜び・楽しさの表現のバリエーションを考えてみる。	4時間
第7回	**モノローグ『怒』『哀』** モノローグで『喜怒哀楽』の『怒・哀』に重点をおき表現してみる。	今回の復習。怒り・哀しみの表現のバリエーションを考えてみる。	4時間
第8回	**創作エチュード** 与えられたテーマで表現してみる。	今回の復習。客に伝えるという事を意識する。	4時間
第9回	**戯曲①　本読み** 戯曲の小作品に取り組む。 本読み、滑舌、アクセント等の確認。	今回の復習。セリフを覚える。	4時間
第10回	**戯曲①　立ち稽古** 軽いミザンスをつけ、立ち稽古をする。	今回の復習。背景を考える。	4時間
第11回	**戯曲①　立体化** 作品をふくらませ更に立体化させる。	今回の復習。自分が伝えたいものが何なのか、より伝わる為にすべきことを考える。	4時間
第12回	**戯曲②　本読み** 作品を表現するための理解を深める。	作品を更に読み込む。	4時間
第13回	**戯曲②　立ち稽古** 演劇空間を成立させる。	観客の目線からも考える。	4時間
第14回	**戯曲②　作品発表　まとめ** 作品の発表。 授業を通し得たもの、自身を振り返る。	言葉をコントロールすることが出来ているか、確認する。	4時間

721

授業科目名	**朗読演習**				
担当教員名	**葛城 七穂**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。 専門学校・声優養成所の講師を担当。（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

様々な作品をテキストに用い、その世界観を伝えることを目標に、読解力、発声、創造力、表現力を磨いていきます。
作品を語る向こう側にいる聞き手を意識し、聞き手を楽しませる為にまず自分達が楽しんで取り組めるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	朗読の表現法	安定した声での表現。豊かな表現力を身につける。
汎用的な力		
1. DP5.計画・立案力		他者に伝える力を培う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題の実演	40 %	： 課題に対し、どれだけ積極的に取り組めているか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30 %	： 授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組めているか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30 %	： 授業で学んだ事をどれだけ理解し、身についているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション<朗読に向けて>** 授業の進め方の説明。 滑舌・発声の基礎説明。 自分を表現してみる。	滑舌・発声の練習。	2時間
第2回	**小文①　音読** 小文を用い、音読する。 声の大小を意識し、一定の大きさを保つ。	テキストの読み込み。	2時間
第3回	**小文②　リズム** 音読する上でのリズム・テンポを意識する。	リズムコントロールを確認する。	2時間
第4回	**絵本①　読み聞かせ** 幼い子供に向けての表現。 難しい言葉は使わず、豊かな表現を求める。	テンションの維持、聞き手への思いを確認する。	2時間
第5回	**絵本②　声の色** 作品にあった声の色とは。	自分がどんな声で語れるのか意識してみる。	2時間
第6回	**日本の昔話①　会話** 言葉のキャッチボールをする。心を動かす。	作品を読み込む。心を動かすとは、更に深く考えてみる。	2時間
第7回	**日本の昔話②　キャラクター** キャラクターを創造する。	本に書かれている情報を元に、人物像を膨らませてみる。その表現方法を模索する。	2時間
第8回	**詩①　感情** 読み手の感情を入れてみる。	主観を意識して読み込む。	2時間
第9回	**詩②　フレージング** フレージングを意識して豊かな表現を目指す。	文章の流れを意識する。	2時間
第10回	**エッセイ①　滑舌** クリアな表現を目指す。	客観的に自分の滑舌を意識できるようにする。	2時間
第11回	**エッセイ②　レセプション** レセプションとは。	レセプション点を丁寧に見つけていく。	2時間
第12回	**翻訳作品①　読解力** 作品の裏にある意図を読み解き伝える。	作品を読み込む。	2時間
第13回	**翻訳作品②　距離感** 言葉を投げる方向を意識する。	どこに向かって発しているのかを確認する。	2時間
第14回	**翻訳作品③　喜怒哀楽** 作品内の喜怒哀楽を丁寧に分析し、表現する。	一文の中にも様々な感情が含まれる。それぞれの解釈があってもよい。	2時間

721

授業科目名	**音楽パフォーマンス**				
担当教員名	楠井 淳子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	以下の実務経験を有する。高等学校教員、民間および音楽大学付属音楽教室、音楽院の講師として勤務。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ノンバーバルコミュニケーションである音楽を使って感性を養います。音楽表現をする上で必要となる楽譜の読み方など基本的な音楽の知識を身に付けます。声・からだを使ったアンサンブルや合唱、各種楽器を用いたアンサンブルなどのグループワークを通して“共に音楽する”ことの意味や効果を探ります。各種楽器の奏法を学び、グループでのアンサンブル体験により、非言語で自己表現したり、他者の表現を感受することで音楽表現力や創造力を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	音やリズムが持つ機能をよく理解し意図的に使える知識。	リズムや音符の高さを理解して演奏する事ができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	声や各種楽器などを意図する表現に向けて演奏する技能。自己の発想を具現化する技能。	グループワークの中で自己表現ができる。簡単な音楽パフォーマンスを創作することがでる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。
2. DP9.役割理解・連携行動		アンサンブルや合唱などのグループワークを通して、協同する力を育むと共に自己の役割を果たす事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	30 %	： 期末レポート課題を考察力、記述力の観点から30点満点で評価する。 提出は定期試験時にて行い、評価する。
授業内課題1（発表）	25 %	： 合奏や合唱などのグループワークを基礎力･表現力の観点から 各5段階で評価する。発表時のコメントシートの記述内容についても5段階で評価する。
授業内課題2（提出課題）	15 %	： 授業内容の理解度をワークシートなどをもとに5段階で評価する。
受講態度（積極的参加）	30 %	： 演習への積極的な参加や取り組みの状況およびコメントシートの内容について総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日2限

場所：　第９研究室

備考・注意事項：　その他の時間も第9研究室（西館６階）で受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の概要と音楽パフォーマンス入門** ・オリエンテーション ・音、音楽の起源 ・記譜：音符と休符について ・様々な音階	音符と休符、音階についての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第2回	**基礎リズムとボディーパーカッション** ・基礎リズム ・ボディパーカッション ・リズムアンサンブル ・読譜	音価とリズムについての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第3回	**合奏①　楽器の理解と奏法** ・各種楽器を用いた合奏曲を演奏する。 ・グループ毎に選曲する。 ・楽器編成と役割を決定する。 ・楽器の奏法	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第4回	**合奏②　技術面の向上** グループ活動：パート別に練習する。 グループ全体での練習。	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第5回	**合奏③　楽曲の理解と表現法** ・楽曲に応じた表現法について考察する ・グループ練習を行う	合奏曲の表現法を踏まえ自己練習をする。	4時間
第6回	**合奏④　発表に向けて** ・アーティキュレーション、アゴーギクなどを確認しながらグループごとにレッスンを受ける。 ・発表に向けたリハーサルを行う。	練習の仕上げを行う。	4時間
第7回	**合奏⑤　発表** ・合奏作品の発表 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第8回	**トーンチャイムとハンドベルを使った音楽①　奏法について** ・トーンチャイムとハンドベル ・楽器の奏法 ・オブリガート奏とハーモニー奏 ・グループ毎に選曲する。	課題曲のメロディーの歌唱練習。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。	4時間
第9回	**トーンチャイムとハンドベルを使った音楽②　グループ練習** ・グループ毎に音の配分を考察し、役割分担する。 ・パート別に練習する。 ・全体練習も行う。	自己パートの練習として音読と歌唱を行なう。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。	4時間
第10回	**トーンチャイムとハンドベルを使った音楽③　発表** ・グループ練習 ・トーンチャイム、ハンドベルアンサンブルの発表。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。	4時間
第11回	**合唱①　発声法と歌唱** ・発声法と発声練習 ・合唱曲（２部合唱）を歌う。 ・グループに分けて、選曲する。 ・各自のパートを決定する。	発声練習を行う。各自のパートを練習する。	4時間
第12回	**合唱②　パート練習** ・発声練習 ・グループ練習（パート別）	発声練習を行う。各自のパートを練習をする。表現にも配慮して練習する。	4時間

第13回	**合唱③　グループ練習** ・グループ練習（パート別と全体） ・作品の表現練習と工夫 ・演奏会リハーザル	各自の完成度を高める練習を行う。可能であれば練習グループも課外時間に実施する。	4時間
第14回	**合唱④　発表会** ・グループ毎に合唱曲の発表をする。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想、自己評価をまとめ意見交換や討議を行なう。	授業内容を振り返り、自己の課題を明確にする。	4時間

721

授業科目名	**児童英語指導法Ⅰ**				
担当教員名	**工藤 律子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、実践的な指導法を学ぶため、教室で子供たちに英語を教える際のヒントをたくさん学ぶことができます。指導案は複雑なものではなく、モデル案にそって行います。この講義はあくまでも楽しく英語を子供に教えたいということが基本となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英語教育の現状・言語習得・英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	指導案作成し模擬授業を行う。	講義で得た理解を指導実践にいかす。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	10 %	： 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
小レポート	10 %	： 英語指導法に必要な知識をまとめる。
小テスト	20 %	： 英語指導に関する知識をテストする。
模擬授業・発表・フィードバック	30 %	： 模擬授業・発表の内容を評価する。フィードバックのコメントを評価する。
期末レポート	30 %	： 第14回の授業後に小学校の学習指導要領・フォニックス・レッスンプラン・言語習得の基礎に関するレポート提出する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・Let's Try１・２	・東京書籍	・2018　年
小川隆夫・東仁美	・小学校英語はじめる教科書改訂版	・mpi	・2021　年
粕谷みゆき・金子由美	・This is Phonics１・２	・mpi	・2012　年

参考文献等

「小学校学習指導要領　外国語活動・外国語編」「英語教員のための応用言語学」
その他の参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**J-SHINEの制度と理念の理解／小学校教育の理念と現状の理解／小学校英語（活動型・教科型）の学習指導要領の理解** 児童を取り巻く教育環境の変化を理解し、英語教育の必要性や指導者について考える。外国語（英語）活動と教科としての外国語（英語）の違いを理解する。	テキストを読み、理解してくること・学習指導要領に目を通すこと・フォニックスルール（フォニックスアルファベット）	4時間
第２回	**中学校・高校の学習指導要領との関連／小・中・高等学校の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割／多様な学校・児童のニーズへの対応の在り方を理解する** 各校種ごとに設定された学習指導要領を理解し、学びの接続について理解し、校種ごとに何ができるのかを考える。実例を元に、インクルーシブ教育について学び、教員として多様な生徒への対応を理解する。	テキストを読み、理解してくること・学習指導要領に目を通すこと・フォニックスルール（子音）	4時間
第３回	**異文化理解（異文化・多様性とは何か）①** 今までに行った異文化交流を振り返り、そこで得たものについて考える。また、新しい異文化交流の企画を考える。多様な学校・児童のニーズへの対応の在り方での学びを活かし、多様性について考える。	テキストを読み、理解すること	4時間
第４回	**第二言語習得の理論の基礎（言語習得のプロセス）①／発達心理学の基礎（児童の発達段階）①／音声・語彙・文法の基礎知識（語彙）①** 第二言語習得の理論について理解する。各児童の発達的な特質について考える。コミュニケーションとして文法や日本語の音声との違いについて学ぶ。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（短母音）	4時間
第５回	**第二言語習得の理論の基礎（さまざまな理論）②／発達心理学の基礎（児童の発達の支援）②／音声・語彙・文法の基礎知識（文構造・文法）②／異文化理解②（事例：小学校の通常授業を利用した異文化理解）** 第二言語習得理論から示唆を得て、小学校教育の授業について考える。各児童の発達に合わせた指導の工夫について考える。発音と綴りの関係について学ぶ。 通常授業ではどのような異文化理解をすることができるのかを、具体的事例をもとに学ぶ【Google Class roomでの事前課題あり】。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（eのついた母音）	4時間
第６回	**英語活動の狙いとあり方（活動のねらい）①／学級担任と外部指導者とのTTについての考察（TTとは）①／児童の認知力や発達に即した指導法（児童の認知発達）①／異文化理解③（事例：市内の異学齢交流）** 「小学校　学習指導要領」から活動の狙いについて理解する。外部指導者とTTの授業を行う効果について考える。社会発達論、認知発達論について理解する。 大阪市内で行っている具体的事例をもとに学ぶ【Google Class roomでの事前課題あり】。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（礼儀正しい母音）	4時間
第７回	**英語活動の狙いとあり方（活動のあり方）②／学級担任と外部指導者とのTTについての考察（JTEとは・具体例）②／児童の認知力や発達に即した指導法（社会文化理論）②／異文化理解④（事例：交流）** 「外国語活動　活動例案」を基に各学年にふさわしい活動の進め方について考える。TTの具体的事例を学ぶ。児童の認知・情緒に合わせた指導法を考案する必要性について考える。 年齢を問わず行われる異文化理解のための交流の実際を学ぶ【Google Class roomでの事前課題あり】。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（第1回～7回までの復習）	4時間
第８回	**英語によるコミュニケーションの方法とその指導法　演習（授業案について）①** 主体的・対話的で深い学びができるコミュニケーションの目的や場面、状況を設定し、他者に配慮しながら意味のあるやりとりを行う授業案を作成する。	指導案を作成すること・フォニックスルール（2文字子音）	4時間
第９回	**英語によるコミュニケーションの方法とその指導法　演習（模擬授業）②**	指導案を再構成すること・フォニックスルール（2文字母音）	4時間

	８回で作成した授業案を基に、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。		
第10回	**英語によるコミュニケーションの方法とその指導法　演習（TPR指導法）③／言葉の気づきももたらす指導法　演習（指導案作成）①** 「聞く」必然性のある活動としてのTPR指導法を学び、実際の授業を体験する。 言葉の違いに「気づく」という体験をし、「気づき」をもたらす活動を作成する。	テキストを読み、理解すること・指導案を作成すること・フォニックスルール（第9回～10回の復習）	4時間
第11回	**言葉へのきづきをもたらす指導法　演習②** 第10回で作成した活動の模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を作成し、再構成すること・フォニックスルール（連続子音）	4時間
第12回	**言葉へのきづきをもたらす指導法　演習（まとめ）③／児童の認知・情緒発達に即した指導法　　演習（低学年）①** 第11回で得たフィードバックをもとに、振り返りとまとめを行う。 様々な生徒を受け入れている学校の事例を学ぶ。 低学年に適した指導法の作成し、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成すること・フォニックスルール（ｒのついた母音）	4時間
第13回	**児童の認知・情緒発達に即した指導法　　演習（中学年）②** 中学年に適した指導法の作成、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成すること・フォニックスルール（第13回～14回の復習）	4時間
第14回	**児童の認知・情報発達に即した指導法　　演習（高学年）③** 高学年に適した指導法の作成、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。 まとめと振り返りを行う。	指導案を再構成すること・フォニックスルールを理解するための指導ついて	4時間

721

授業科目名	**児童英語指導法Ⅱ**				
担当教員名	**工藤 律子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、実践的な指導法（歌・絵本・チャンツを利用した指導法）を学びます。また、小学生への４技能指導について、模擬授業を通して実践力を身につけます。指導案は複雑なものではなく、モデル案にそって行います。この講座はあくまでも楽しく英語を子供に教えたいということが基本となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	様々な英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	歌や絵本などを通した指導法を学ぶ。	多くの歌や絵本にふれ、指導実践を行う。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	10 %	： 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
小レポート	20 %	： 英語指導法に必要な知識をまとめる。
小テスト	10 %	： 英語指導に関する知識をテストする。
模擬授業・発表・フィードバック	30 %	： 模擬授業・発表の内容を評価する。フィードバックのコメントを評価する。
期末レポート	30 %	： 第14回の授業後に歌・絵本・チャンツなどを利用した授業、レッスンプラン、フォニックスルールについていのレポートを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小川隆夫・東仁美	・小学校英語　はじめる教科書　改訂版	・mpi	・2021　年
酒井英樹	・Crown Jr. ５・６	・三省堂	・2020　年
粕谷みゆき・金子由美	・This is Phonics １・２	・mpi	・2012　年

参考文献等

「Songs and Chants 」「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」「英語で自己表現ワーク」
そのほかの参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**小学生に適したリスニング・スピーキング・ライティング・リーディングの指導／４技能統合型活動の理解（具体的活動例）①** 「小学校　学習指導要領」を基に、児童が求められる力を理解し、指導者として必要な力を考える。CLILについて理解する。	テキストを読み、理解すること	4時間
第２回	**４技能統合型活動の理解（担任の指導力）②／児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方／英語の基本的な語彙や表現に慣れ親しませる方法の指導** ５領域統合型の授業について考える。動画や絵を用いて、英語の語彙や表現に慣れ親しむ方法を具体的に学ぶ。	テキストを読み、理解すること・具体的な指導法をまとめること	4時間
第３回	**児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方／英語の基本的な語彙や表現に慣れ親しませる方法の指導／Classroom English（指示英語）　演習①** 歌やチャンツやマザーグースを用いて、英語の語彙や表現に慣れ親しむ方法を具体的に学ぶ。 教室英語の表現を練習する。	歌・チャンツ・マザーグースを練習する	4時間
第４回	**小学生に適したリスニング・スピーキング指導　演習（指導案作成）①／小学生に適したライティング・リーディングの指導　演習（指導案作成）①** 指導案を作成する。	指導案を作成する	4時間
第５回	**小学生に適したリスニング・スピーキングの指導　演習（模擬授業）②／小学生に適したライティング・リーディングの指導　演習（模擬授業）②-1** 第４回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第６回	**小学生に適したライティング・リーディングの指導　演習（模擬授業）②-2／小学生に適したリスニング・スピーキング指導・小学生に適したライティング・リーディングの指導　演習③（指導案再構成）** 第5回の発表の残りを行い、互いにフィードバックを行う。 第４回～６回の授業において、指導案の作成及び発表を行ったものを、フィードバックをもとに再構成する。	指導案を再構成する	4時間
第７回	**小学生に適したリスニング・スピーキング指導・小学生に適したライティング・リーディングの指導　演習④（振り返りとまとめ）／Classroom English（やり取り）　演習②** 第6回での指導案再構成をもとに、グループで椅子カッションを行い、指導のポイントをまとめる。 教室英語の表現を練習する。	指導案をもとにふりかえり、ポイントをまとめ直す。	4時間
第８回	**４技能統合型活動　演習①／Teacher Talk 演習（特徴）①** 指導案を作成する。 児童に対して指示や説明する際に、わかりやすい英語表現を考え、指導練習を行う。	指導案を作成する・TTの練習	4時間
第９回	**４技能統合型活動　演習②／Teacher Talk （相手に理解してもらう英語）演習②** 第８回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、互いにフィードバックを得る。 児童に対して指示や説明する際に、わかりやすい英語表現を考え、指導演習を行う。	指導案を再構成する・TTの練習	4時間
第10回	**歌・マザーグース・チャンツの指導（指導法を学ぶ）①** 授業の場面に応じた歌の選び方を理解する。 英語特有のリズムやライムを体感する。 チャンツを用いることによる語彙や表現のインプットを体感する。 様々なマザーグースに触れ、授業での取り入れ方を学ぶ。	歌および歌の指導の練習・指導案を作成	4時間

第11回	**歌・マザーグース・チャンツの指導（模擬授業）②** 第１０回で学んだことを用いて、授業外学習課題で考えてきた指導案をもとに、模擬授業を行い、互いにフィードバックを与える。	指導案を再構成する。	4時間
第12回	**歌・マザーグース・チャンツの指導（振り返り・まとめ）③／絵本指導、読み聞かせ指導　演習（低学年）①** 指導についての振り返りを行う。 低学年を対象とした絵本指導の体験をする。絵本を１冊選び、その内容を理解させる指導の体験をする。	模擬授業の振り返りをまとめる・絵本を選ぶ。	4時間
第13回	**絵本指導、読み聞かせ指導　演習（中・高学年）②** 高学年や中学年を対象とした絵本指導の体験をする。絵本を１冊選び、児童との対話を取り入れながら、ストーリーの中へ引き込む指導の体験をする。	絵本の指導案を作成する	4時間
第14回	**絵本指導、読み聞かせ指導（模擬授業）　演習③** 絵本指導、読み聞かせ指導を行い、互いにフィードバックを得る。	絵本の指導案を再構成する。	4時間

721

授業科目名	**児童英語実践Ⅰ**				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期集中	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、児童英語指導法で学んだ理論等を復習し、実践力を磨く実習の準備を行います。また実習を通して、実践的な指導を学び、日々のフィードバックを授業の中へ取り入れ、実践力を身につけます。実践者として将来活躍したい学生に向いています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英語教育の現状・言語習得・英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	指導案作成し模擬授業を行う。	講義で得た理解を指導実践にいかす。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

有り(連携先：こみち幼稚園・大阪府内小学校)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	10 %	： 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
ポートフォリオ	20 %	： 実習に関して、実施指導内容や事前の取り組み、また振り返りを記録したものを評価する。
レポート	20 %	： 事後学習として、実習全体についてのレポートを評価する。
実習での取り組み	50 %	： 実習での個々の取り組みを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Bill Martin	・Brown Bear, Brown Bear, What do you see?	・mpi	・1996　年

参考文献等

「小学校学習指導要領　外国語活動・外国語編」「幼稚園教育要領」「小学校英語はじめる教科書　改定版」「This is Phonics 1」
その他の参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**J-SHINEの制度と理念の理解／幼稚園教育要領の理解** 指導者になるための資格を有するために、児童英語指導法Ⅰでも触れたJ-SHINEの制度と理念の理解をする。また、幼稚園の教育要領を理解し、園児が学ぶべき姿を理解する。	テキストを読み、理解してくること・幼稚園教育要領に目を通すこと・アルファベットを正しく発音できるように練習する。	2時間
第２回	**アルファベットの指導について** 幼稚園の正課の授業で行っているアルファベット指導について学ぶ。実際に模擬授業を行う。	フィードバックを基に指導法を考え直す。	2時間
第３回	**第２言語習得の理論とプロセスについて** 第二言語習得の理論について理解する。第二言語習得理論から示唆を得て、幼稚園の授業について考える。各児童の発達に合わせた指導の工夫について考える。	テキストを読み、理解すること	2時間
第４回	**歌の指導** 実際の幼稚園で行う歌の指導を学び、それを体験する。また、授業の中でどのように歌を取り入れるかを考え模擬授業をする。	フィードバックを基に指導法を考え直す。	2時間
第５回	**絵本の指導** 実際の幼稚園で行う絵本の指導を学び、それを体験する。また、授業の中でどのように絵本を取り入れるかを考え模擬授業をする。	フィードバックを基に指導法を考え直す。	2時間
第６回	**実習（5～8日間）** こみち幼稚園での実習	日々振り返りを行い、次の日に向けて準備する。	2時間
第７回	**事後学習** 実習を通して得たことなど、各自振り返り、フィードバックを基に指導法について考える。	レポートを作成する	2時間

721

授業科目名	**児童英語実践Ⅱ**				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期集中	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、児童英語指導法で学んだ理論等を復習し、実践力を磨く実習の準備を行います。また実習を通して、実践的な指導を学び、日々のフィードバックを授業の中へ取り入れ、実践力を身につけます。実践者として将来活躍したい学生に向いています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英語教育の現状・言語習得・英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	指導案作成し模擬授業を行う。	講義で得た理解を指導実践にいかす。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

有り(連携先：大阪府内小学校・こみち幼稚園)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	10 %	： 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
ポートフォリオ	20 %	： 実習に関して、実施指導内容や事前の取り組み、また振り返りを記録したものを評価する。
レポート	20 %	： 事後学習として、実習全体についてのレポートを評価する。
実習での取り組み	50 %	： 実習での個々の取り組みを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「小学校学習指導要領　外国語活動・外国語編」「小学校英語はじめる教科書　改定版」「This is Phonics 1・2」
その他の参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**小学校英語（活動型・教科型）の学習指導要領の理解／小中連携と、小・中・高等学校の英語教育で求められる学習指導料の理解** 外国語（英語）活動と教科としての外国語（英語）の違いを理解する。校種ごとの学習指導要領を理解し、校種ごとの違いに目を向け、接続に不可欠な指導や学習内容について考える。	テキストを読み、理解してくること・学習指導要領に目を通すこと・フォニックスルール（フォニックスアルファベット）	2時間
第２回	**学校という社会・文化への理解／評価方法について** 学校教育の中で、何を目標とし、どのような生徒を育てようとしているのか、学習指導要領で設定している内容を理解する。また、そのためには、学校でどのような取り組み（地域社会と連動など）を行う必要があるのかを考える。３観点を理解し、実際に評価を行ってみる。また、指導と評価の一体化についても学ぶ。	テキストを読み、理解してくること・学習指導要領に目を通すこと・フォニックスルール（子音）	2時間
第３回	**単元を基本、英語で授業をすすめる指導技術について** 英語で授業をすることで、児童の思考力が高まる点について理解する。また、実際の指導を経験し、指導における注意点を理解する。 ＊児童英語指導法ⅠやⅡで学んだ４技能・歌・チャンツ・絵本等の指導方法を復習しておく必要がある。	テキストを読み、理解すること	2時間
第４回	**フォニックス** フォニックスルールを理解し、フォニックス指導法について考える。	フィードバックを基に指導法を考え直す	2時間
第５回	**英語活動でのゲームについて考える** 楽しく英語を教えるための手法としてのアクティビティについて考える。指導法を考え模擬授業を行う。	フィードバックを基に指導法を考え直す	2時間
第６回	**実習（5～8日間）** 現地での実習を行い、日々振り返りを行う。	日々振り返りを行い、次の日に向けて準備する。	2時間
第７回	**事後学習** 現地での実習で得られたことなど、各自振り返りを行い、指導者として何が必要なのかについて考える。	レポートを作成する	2時間

721

授業科目名	**英語スピーキング　ベーシック**				
担当教員名	**麻畠 徳子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、基礎レベルの英会話力を身につけることを目的とします。基礎レベルとは、限られた語彙を用いて自分の身の回りに起きている問題（SDGsという地球の課題）について関心を持ち、グローバル言語である英語で話すことのできるレベルを指します。各授業では、自発的に英語を使ってコミュニケーションをとる発話練習をします。英会話力の正確さに囚われず、まずは自信を持って英語を発する姿勢を身につけることを目的とします。なお、授業は基本的に英語で行いますが、必要に応じて日本語も用います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英会話能力、英語聴解能力	自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。足りない語彙力は、質問を反復したり、言い方を変えることによって補うことができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 30点満点の小テストの平均を評価の30%とします。
Review Quiz	20 %	： 第7回の授業で、既習単元の理解度を確認するReview Quizを実施します。その結果を評価の20%とします。
授業内課題	30 %	： 複数回にわたって授業内課題を課します。語彙力、表現力、独創性および課題に取り組む姿勢を基準に、5段階で評価します。授業内評価点の平均を評価の30%とします。
定期試験	20 %	： 定期試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本間正人　山本ミッシェールのぞみ	・やさしい英語でSDGs!	・合同出版	・2021　年

参考文献等

Asuka Academy (https://www.asuka-academy.com/) の映像リソースを活用します。
※　Asuka Academy は、ネットラーニンググループ度が支援するNPO法人で、世界のトップレベルの大学・大学院が公開している正規授業の動画や学習コンテンツを無料で配信しています。

適宜授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜1限

場所：　研究室（西館5階）

備考・注意事項：　メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**Lesson 0: オリエンテーション、英語で理解するSDGsとは何か** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・Classroom Englishの表現を学び、授業内では英語で会話する姿勢を身につけます。 ・英語で自己紹介し、クラスメイトとのコミュニケーションを図ります。 ・SDGsというものについて、グローバル言語である英語でその意義を理解します。 ・SDGsの開発目標【1】について学びます。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第２回	**Lesson１：Zero Hunger** ・SDGsの開発目標【2】について学びます。 ・貧困問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・貧困問題や飢餓の問題はどうして起こるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第2回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第３回	**Lesson２：Good Health and Well-Being** ・SDGsの開発目標【3】について学びます。 ・健康・福祉について議論するための語彙や表現を理解します。 ・健康問題はどうして起こるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第４回	**Lesson３：Quality Education** ・SDGsの開発目標【4】について学びます。 ・教育問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・教育問題はどうして起こるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第４回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第５回	**Lesson４：Gender Equality** ・SDGsの開発目標【5】について学びます。 ・ジェンダーの問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・ジェンダーの問題はどうして起こるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第５回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第６回	**Lesson５：Clean Water and Sanitation** ・SDGsの開発目標【6】について学びます。 ・水や衛生問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・衛生問題はどうして起こるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第１～6回 で学習した単語・表現を復習し、小括のReview Quizに備えます。	4時間
第７回	**【小括】LessonＯ～5を振り返る** ・これまで第1回～10回で学んできた語彙や表現などの理解度を測るReview Quizを実施します。 ・1～6のゴールの要点を整理し、自分なりに取る事が出来るアクションについて考えます。	第6回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第８回	**Lesson６：Affordable and Clean Energy** ・SDGsの開発目標【7】について学びます。 ・地球規模の環境問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・環境問題はどうして起こるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第８回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

第９回	**Lesson 7：Decent Work and Economic Growth** ・SDGsの開発目標【8】について学びます。 ・地球規模の経済成長について議論するための語彙や表現を理解します。 ・経済格差はどうして起こるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第９回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	**Lesson 8：Industry, Innovation and Infrastructure** ・SDGsの開発目標【9】について学びます。 ・技術革新の問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・技術革新はどうして必要なのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	**Lesson 9：Reduced Inequalities** ・SDGsの開発目標【10】について学びます。 ・不平等の問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・不平等はどうして生まれるのかを図表やデータ、映像などから理解します。	第11回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	**Lesson 10: Sustainable Cities and Communities** ・SDGsの開発目標【11】について学びます。 ・街づくりの問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・持続可能な街づくりについて、図表やデータ、映像などから理解します。	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	**Lesson 11: Responsible Consumption and Production** ・SDGsの開発目標【12】について学びます。 ・消費問題について議論するための語彙や表現を理解します。 ・持続可能な消費活動について、図表やデータ、映像などから理解します。	第13回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。第14回のグループプレゼンに向けて準備します。	4時間
第14回	**【総括】グループプレゼンテーション：これから先のSDGs** ・これから先のSDGｓについて考えをまとめた内容を発表します。 ・お互いの発表を見て、よかった点、改善点を見つけて相互評価します。	これまで学習してきた内容を復習し、最終試験の対策をしておきます。	4時間

721

授業科目名	**英語スピーキング　スタンダード**				
担当教員名	**工藤 律子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションで必要とされる英語の指導を２０年行ってきました。また、カリキュラム作成や１２年間一貫教育の内容にも携わってきました。（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、パラグラフリーディングが必要な程度の長さを持った英文の読解、リスニングストラテジーが必要な程度の長さを持った英語の聴解、これらを主な題材として、多読多聴を通じた英語の表現力の増強を目的とします。各授業では、題材に関連する語彙や表現、文法項目を学習した上で、ひとつのトピックに関する英語の読解・聴解の課題を多数実施します。また、アカデミックな話題について意見する際のフォーマルな英会話表現も身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力	身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 既習単元のテストや口頭試問を実施します。
レポート	30 %	： 授業内容のテーマやグラマーなどに関するレポートを課します。
グループ発表	20 %	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALKを参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第14回の授業日に行い、評価の20%とします。
期末レポート	30 %	： 第14回の授業後に、日英両方のレポートを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
John Hughes, Becky Tarver Chase;	・World English 3 Third Edition	・Cengage Learning	・2019 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、Unit 1（前半） Why people move** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・人々がなぜ移動するのかについて考えます。 ・現在完了と現在完了進行形について学びます。	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第２回から始まる小テストに備えます。Unit 1のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第２回	**Unit 1（後半） Improving communities** ・地域をよくするためには何をすればよいのかについて議論します。 ・so ～that構文について学び、この表現を用いてライティングにチャレンジします。	Unit 1で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第３回	**Unit 2（前半） Personal Characters** ・個人の性格について学びます。 ・不定詞と動名詞について学びます。	Unit2で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第４回	**Unit 2（後半） Emothional Experience** ・感情を表す方法を学びます。 ・記憶をよくすることについて議論します。 ・助動詞mightについて学びます。	Unit 2で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第５回	**Unit 3（前半）Changing Planet** ・地球の変化について考え、その原因を探ります。 ・動物の数の増減の状況を知り、その原因について議論します。 ・受動態について学びます。	Unit3で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第６回	**Unit 3（後半）Climate change** ・身の回りで起きている気候の変化について考え、その原因について議論します。 ・過去完了時制について学びます。	Unit 1-3で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。	4時間
第７回	**TED TALK** ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit4に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第８回	**Unit 4（前半）Things you value** ・大事な人や大事な出来事について意見を述べます。 ・動名詞と不定詞について学びます。	Unit4で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 4 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第９回	**Unit 4（後半）Great jobs** ・仕事をする際の条件について意見を述べます。 ・出てきた意見についての賛成・反対を述べその理由を伝えます。 ・完了形や進行形の受動態について学びます。	Unit 4で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	**Unit 5（前半）Survival of species** ・生物が生き残るために行うことについて議論します。 ・助動詞+have+過去分詞について学びます。	Unit 5で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	**Unit 5（後半）Rescue** ・生き残るためにすべきことについて学びます。 ・困難な状況下での助言を提案します。 ・I wish / I hope を用いた文書を学び、ライティングにチャレンジします。	Unit5で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	**Unit 6（前半）Art**	Unit 6で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

	・Artのタイプやその価値について考えます。 ・Public Artについて、自分の意見を述べます。 ・話法について学びます。		
第13回	**Unit 6（後半）Modern Art** ・現代のArt作品に触れ、鑑賞を行います。 ・関係代名詞（主格）を学びます。	プレゼンテーションの準備を行います。	4時間
第14回	**プレゼンテーション** ・1回～13回までの授業内容を振り返ります。 ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。	プレゼンテーションの振り返りを行い、内容の訂正を行います。	4時間

721

授業科目名	日本語文法1				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、中等教育段階で習得した内容を確認し、的確に文章表現する力を向上させるための「文の構成の在り方」について学ぶ。学びの内容は、「文」「文節」「単語」「自立語・付属語」「活用がある・活用がない」「品詞」「文の成分」の７事項について、1回～複数回をかけて事項別に学ぶ。毎回の授業には例題や練習問題を含む授業資料を１～数枚配布し、講義内容を把握するとともに個人またはグループで練習問題等に取り組む。授業の最後には学修内容に関連する課題を課し次回の授業までに取り組むことを基本とする。

毎回の授業は「講義→グループワーク→全体交流→自学による事後課題」で構成される。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	日本語の文法に関する基礎的事項の理解	日本語の文法事項を理解し、説明することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		自分が理解できていない事項を確認し、その克服に向けて積極的に練習問題等に取り組む。
2. DP6.行動・実践		学んだ内容を日常の会話やレポート等の作成に活用し、より的確な表現力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート（13回分）	39 %	： 1～13回目までの授業参加度はワークシートの作成状況を通じて判断する。ワークシートの内容は３点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
課題（13回分）	39 %	： 1～13回目まで各回課題を課し、毎回３点満点で評価する。独自のルーブリックによる。
期末テスト	22 %	：

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜2限

場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス、「文の組み立て」「文節」** 本授業におけるシラバスと評価内容、評価方法について理解する。授業資料１をもとに「言葉の単位」について確認し、授業資料２で「文節」について確認した上で練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第2回	**「文節→単語→自立語・付属語」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料３をもとに「文節」と「単語」の関係、「単語」と「自立語」の関係について確認した上で練習問題に取り組む。授業資料４・５をもとに「自立語」と「付属語」の違いを確認する。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第3回	**「品詞分類表」「活用がある・ない」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料６をもとに「品詞分類表」の見方を確認し、今後の授業での活用方法を理解する。授業資料７をもとに「活用がある」「活用がない」の違い、その違いと「品詞分類表」の関連を確認する。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第4回	**「品詞１　名詞（体言）」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料８をもとに「体言」と「名詞」の関連、「名詞」の特性、「名詞の種類」を確認した上で、授業資料９の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第5回	**「品詞２　動詞（用言）」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料10をもとに「用言」と「動詞」の関連と「動詞」の特性を確認する。授業資料11・12をもとに「動詞」に「活用がある」ことを確認する。授業資料10・13・14をもとに「活用の種類」を確認する。授業資料15の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第6回	**「品詞３　形容詞・形容動詞（用言）」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料16をもとに「用言」と「形容詞」「形容動詞」の関連、「形容詞」「形容動詞」の特性を確認する。授業資料17の練習問題に取り組んだのち、授業資料18で「形容詞」の活用、授業資料19で「形容動詞」の活用について確認する。授業資料20の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第7回	**「文の成分１　主語・述語」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。第４～６回で確認した「体言」と「用言」の特性を踏まえ、授業資料21で「文の成分」とは何かを確認し、授業資料22で「主語」と「述語」の「文」における働きや見分け方を確認する。授業資料23の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第8回	**「文の成分２　修飾語」** 前回の授業内容を授業資料24をもとに振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料25で「連文節」の「文」における働きを、授業資料26で「修飾語」の働きを確認する。授業資料27の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第9回	**「品詞４　連体詞・副詞」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料28をもとに「連用修飾語」と「連体修飾語」の働きの違いを確認し、授業資料29の練習問題に取り組む。授業資料30をもとに「連体詞」「副詞」の特性を確認し、授業資料31・32・33の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第10回	**「文の成分３　接続語／品詞５　接続詞」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料34をもとに「文」における「接続語」の働きを確認するとともに、授業資料35をもとに「接続語」の分類及び「接続詞」との関連について確認する。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第11回	**「文の成分４　独立語／品詞６　感動詞」**	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間

	前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料34をもとに「文」における「独立語」の働きを確認するとともに、授業資料36をもとに「独立語」の分類及び「感動詞」との関連について確認する。授業資料37の練習問題に取り組む。		
第12回	**「品詞７　助詞」** 前回の授業内容を振り返り、今回の授業との関連を理解する。授業資料38をもとに「助詞」の特性を確認する。授業資料39の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第13回	**「品詞８　助動詞」** 前回までの授業内容を授業資料40・41・42で振り返り、授業資料43の練習問題に取り組む。授業資料44をもとに今回の授業との関連を理解する。授業資料45で「助動詞」の特性を確認し、授業資料46・47で「助動詞」の意味と活用が多岐にわたることを確認する。授業資料48の練習問題に取り組む。	授業内容についてノートにまとめ整理する。課題に取り組む。	4時間
第14回	**まとめ** 第１～13回で扱った文法事項を総括的にまとめ、学びの内容を振り返る。期末課題の内容を説明する。	授業内容についてノートにまとめ整理する。定期試験に向けた準備を行う。	4時間

721

授業科目名	**日本語文法2**				
担当教員名	田中 哲平				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、これから日本語教育を目指す学生や、日本語の基礎をもう一度復習しよう、という目的をもつ学生のために開講される。また日本語教育や言語学の基礎にも触れていくことで文法だけにとらわれない思考を身に付けていく。最終的には、SPIの言語分野の問題や秘書検定といった実務問題にも接する。このプロセス重視の授業は、日本語教育に限らず、これからの社会で仕事やプロジェクトに取り組む際にも、必ずや実践的に役に立つこととなる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	「日本語」の基本構造についての理解。	日本語の基本的な構造を支える文法事項について、多くの事例を観察しながら学ぶ。
2. DP2.専門的知識・技能、職業理解	「日本語文法」の理解。	「学校文法」とは異なる「日本語文法」について、両者の両立を前提として、その違いを理解する。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		自分自身の日本語運用力（経験）を活用し、学んだ基本概念を基に、自らの力で答えを考え、見つける力を身に着ける。
2. DP8.意思疎通		グループディスカッションを通して、自らの意見を仲間に的確に伝えたり、仲間の意見を理解したりする力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業開始後45分以上の遅刻は欠席とみなします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テスト・小レポート	60 %	： 前回の授業で学んだ知識、その日の授業で学んだ知識、について独自のルーブリックに基づいて評価します。採点した答案は返却をします。
定期試験（レポート）	40 %	： 指定された課題の到達度に応じて、独自のルーブリックに基づき、適切に評価をします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『考えて、解いて、学ぶ　日本語教育の文法』　原沢　伊都夫著（スリーエーネットワーク）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
授業後は、毎回内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて疑問点や問題点を整理しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 西館5F研究室

備考・注意事項： メールでアポイントメントを取り、質問などを受け付ける。
メールには必ず学籍番号と名前、希望する時間帯を必ず入れること。
tanaka-te@g.osaka.seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス―日本語文法とは―** 「日本語文法2」の目的と全体的な計画について説明する。受講するにあたり、大変重要な事を沢山説明するので、必ず出席する事。	日本語について疑問に思っている箇所をピックアップする	4時間
第2回	**日本語文の構造** 「日本語文法」と「学校文法」の違いと、両者が両立可能である理由を説明する。 　また、日本語の基本文型（格関係、述語と必須成分）、格助詞の主な用法について、 説明をする。たくさんの練習問題に取り組むことで、知識を確実なものとする。	授業内容についての復習。指示された設問	4時間
第3回	**自動詞と他動詞　その1：自動詞と他動詞の分類** 日本語の発想＝自然中心の発想、という観点から自動詞と他動詞について考える。ただ文法現象を説明するだけではなく、言葉の中に潜む日本人特有の精神文化が浮かび上がってくることで、英語をはじめとする多言語と比較する観点からも有意義な分類となる。	授業内容についての復習。疑問点の整理。指示された設問。	4時間
第4回	**自動詞と他動詞　その2：　自動詞と他動詞の特徴を理解する：まとめ** 自動詞・他動詞の区別は、いかなる言語を学ぶ時でも非常に重要であるので、もう一度「自動詞」「他動詞」について、その特徴を学ぶ。また、自他の対応のある動詞、自動詞だけの動詞、他動詞だけの動詞、自他両方を兼ねる動詞、についても様々な考察を行う。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第5回	**ヴォイス　その１：ヴォイスとは？** 「ヴォィス」とは何か？多くの人が初めて耳にする概念であると思う。が、具体的には「受身形」「使役形」「使役受身形」「可能形」などとして表される。日常で頻繁に使っている表現ではあるが、「日本語文法」という観点から、さまざまな練習問題や事例の観察に取り組みながら、「ヴォイス」の概念について、学ぶ。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第6回	**ヴォイス　その2：受身、使役、使役受身、可能形の見分け** 前回の授業で学習した「ヴォイス」の概念を再整理し、様々なヴォイスの表現をしっかりと理解する。テキスト内の様々な例文や設問に取り組み、知識を定着させる。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第7回	**ヴォイス　まとめ** これまで学んだ「ヴォイス」のまとめ。小テスト実施。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第8回	**テンス　その１：時制について知る** テンスとは、日本語では「時制」、つまり時を表す文法カテゴリーのことである。日本語のテンスについては、現在も研究者の間で意見が分かれているが、授業では現在日本語教育界で主流となっている説を学ぶ。述語の「ル形」と「タ形」は、現在を表すのだろうか？それとも過去を表すのだろうか？区別において、何か共通したルールはあるのだろうか？設問を通じて考えてみる。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第9回	**テンス　その2：具体例を分析する** 日本語の「ル形」と「タ形」はテンスを表す、と前回の授業では学んだが、実はテンスだけでは説明できないことがある。たとえば、「もう宿題をやりましたか？」に対する適切な否定の返答は「いえ、やりませんでした」より、「いえ、まだやっていません」の方が適切である。なぜだろうか？たくさんの事例を基に、考えてみよう。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第10回	**アスペクト　その1：アスペクトについて知る** 日本語のアスペクト（相）は、動詞の表す事態のどの局面を取り上げるかにより、さまざまな文法形式をとる。例えば、「作るところだ」「作り始める」「作っている」「作り終わる」「作ってある」などにおける「～ところだ」「～始める」「～ている」「～終わる」「～てある」がアスペクト表現であり、これらの形式によって「作る」という動作の様々な局面を表すことが可能となる。授業では、日本語教育の初級レベルで取り上げるアスペクト表現を中心に、考察を試みる。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第11回	**アスペクト　その2：具体例を分析する**	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間

	前回の授業で学んだ「アスペクト」の概念の復習、とともに「アスペクトとは異なる表現」についてもたくさんの事例や、自身の日本語力を基に、考えてみる。また、章末の練習問題にも取り組み、自ら考え、解決する力を養う。		
第12回	**秘書技能検定とは何か** 実務的に使用される敬語などに触れ、これまでの日本語文法を活かした発見をおこない、実務的な日本語文法に触れていく。	テキストを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第13回	**SPIとは何か（言語分野）** これまでの授業を活かし、SPIで出題される日本語文法に関わる分野（特に言語学分野）について学び、実践的な日本語文法に触れていく。	テキスを用いて復習をする。指示された設問。	4時間
第14回	**SPIとは何か（推論分野）** これまでの授業を活かし、SPIで出題される日本語文法に関わる分野（特に推論分野）について学び、実践的な日本語文法に触れていく。	テキストを用いて復習をする。期末課題に向けての準備。	4時間

721

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習Ⅰ				
担当教員名	浅野 法子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の表示：「不可」

授業概要

社会におけるさまざまな「表現」について目を向けてみましょう。本授業では物語に着目し、私たちがつむぎだす物語が、どのように変容していくかについて考えます。文学作品の映画化やアニメーション化といった視覚化の問題について、自ら課題を発見して調査結果を発表し、レポートにまとめます。ケーススタディーとして、文楽や吉本新喜劇での観劇を通して、舞台表現についても考察します。プレゼンテーションやレポート作成の方法についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	文学作品研究	文学作品を分析できる
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		文学作品をクリティカルに分析できる
2. DP7.完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる

学外連携学修

有り(連携先：宝塚劇場団)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「—」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30 %	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2-3ポイント、理解不足は1ポイント。
受講態度	10 %	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

プリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　研究室（西館5階）

備考・注意事項：　授業の前後にも質問に応じます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス――物語とは** ・演習形式の説明とこれからの取り組み方について ・課題への取り組み方として、情報収集、調査方法、分析の仕方、発表形式について学ぶ。 ・物語の変容について考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第2回	**「物語」の変遷：口承文学のメディアミックスについて考える** 人々に語りつがれてきた昔話や民話は、活字化、絵本化、アニメーション化されることによって、物語はどのように変化するのか。シンデレラを例に考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第3回	**「物語」の変遷：翻訳にまつわる諸問題を考える** 海外の作品が翻訳される際には、原著がもつイメージが失われる部分も少なくない。授業では中国語圏の文学作品を例に、翻訳にまつわる諸問題について考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第4回	**「物語」の変遷①文学作品のメディアミックスについて：ジブリの場合** 文学作品が映画化、アニメーション化されることによって、物語はどのように変化するのだろうか。 ジブリ作品を例に考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第5回	**「物語」の変遷②文学作品のメディアミックスについて：ディズニーの場合** 文学作品が映画化、アニメーション化されることによって、物語はどのように変化するのだろうか。 ディズニー作品を例に考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第6回	**調べる方法について：舞台表現について考える** 文楽や吉本の観劇を通して、舞台表現について調べる。調査方法として、文献検索を学ぶ。自ら課題を設定し、発表テーマを定める。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第7回	**発表の方法について** プレゼンテーションの方法を知り、「伝わる」発表について考える。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第8回	**舞台表現について発表する** ピア評価をした後に、グループ発表を実施する。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第9回	**「物語」の変遷について考える①テーマを見つけ、発表準備をする：情報収集** 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表の準備をする。レジュメの作成方法、パワーポイントの作成方法を確認する。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第10回	**「物語」の変遷について考える②テーマを見つけ、発表準備をする：発表方法の確認** 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第11回	**「物語」の変遷について考える③発表する：絵本化された作品** 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。レポートの書き方について学ぶ。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第12回	**「物語」の変遷について考える④発表する：動画化された作品** 文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。レポートの書き方について学ぶ。	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間
第13回	**「物語」の変遷について考える⑤発表する：映画化された作品**	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読	1時間

	文学作品のメディアミックスに着目し、物語の語りがどのように変容しているかを考察して発表する。また、発表者との意見交換を積極的に行う。レポートの書き方について学ぶ。		
第14回	**まとめ：物語について考える** 半期の授業を振り返り、私たちの身のまわりの「表現」について考えてみる。	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	1時間

721

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習Ⅱ				
担当教員名	田中 哲平				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

身近なテーマをモチーフに学術研究が行われることは数多くある。本授業では日常生活で目に触れることの多い映像作品に着目し、研究を行っていく。特に、映画やドラマを中心にした映像作品の心理学的な分解を試みる。例えば海外の作品と日本の作品では、物語の構成やキャラクター特性にどのような違いが見られるのだろうか。古典的な作品と新しい作品では何が違うのだろうか。他にも実写とアニメーションの違いなどを把握し、映像表現についての理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	映像表現における心理学的分解	映像作品における物語の構成要素やキャラクター特性を把握する手法を身に付ける
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		映像作品の深い理解

学外連携学修

有り(連携先：大阪市北区　大阪四季劇場)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

フィールドワークで宝塚歌劇団の舞台を観劇します。阪急電鉄「宝塚」駅までの往復の交通費が必要です。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	30 %	： 授業内容に関する質問，コメント，感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。（2点×15回=30点）
小レポート	30 %	： 講義の前半で学んだ知識を正しく理解し，表現できているかについて評価する。
期末レポート	40 %	： 講義で学んだ知識を正しく理解し，表現できているかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中の配布資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 西館5F研究室

備考・注意事項： メールでアポイントメントを取り、質問などを受け付ける。
メールには必ず学籍番号と名前、希望する時間帯を必ず入れること。
tanaka-te@g.osaka.seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**映像表現とはなにか** 映像表現についての概要をオリエンテーションで学びながら、授業の目的や評価方法について伝えます。	お気に入りの映画を探してください	2時間
第2回	**映像の仕組み（1）　—心理学の観点から見た映像作品—** 私たちが映像作品をどのような仕組みで見ているのかを、運動錯視の観点から学びます	錯視ついて事前学習を行ってください	2時間
第3回	**映像の仕組み（2）　—映画の観点から見た映像作品—** 私たちが映像作品をどのような仕組みで見ているのかを、フィルム等の物理的な観点から学びます	フィルムの仕組みについて事前学習を行ってください	2時間
第4回	**キャラクター評定をやってみよう** 映像作品に登場するキャラクターを心理学的に評定する手法を学び、短い映像作品を鑑賞しながら登場キャラクタの人物評定を行います	SD法などの評定方法について事前学習を行ってください	2時間
第5回	**物語の構造分析（1）—構造分析の手法—** 映像作品の構造を心理学的に評定する手法を学び、短い映像作品を鑑賞しながら物語の構造分析を試みます	コーパス分析などの分析手法について事前学習を行ってください	2時間
第6回	**物語観劇に関する事前学習** 第7回で観劇する作品について事前調査し、物語の構造やキャラクタの特徴について調べます	調査したことをレポートにまとめます	2時間
第7回	**物語の観劇** 実際の劇団の観劇を行い、事前に調査した内容がどのように表現されているかを学びます	観劇したことをレポートにまとめます	2時間
第8回	**物語観劇に関する事後学習** 第7回で観劇した作品についてまとめ、物語の構造やキャラクタの特徴がどのように表現されていたか、事前調査との相違点などをプレゼンテーション発表します	観劇した内容に関して発表準備を行います	2時間
第9回	**物語の構造分析（2）—同一テーマの構造分析—** 主に児童向けアニメを視聴し、構造分析とキャラクター分析を行い、物語構造や表現手法の相違点を調べます	学習したことをレポートにまとめます	2時間
第10回	**物語の構造分析（3）—時代を超えた同一テーマの構造分析—** これまで視聴してきたテーマと共通する実写作品（時代劇）を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行い、物語構造や表現手法の相違点を調べます	学習したことをレポートにまとめます	2時間
第11回	**物語の作成と心理学** 人間は本来意味のない事象に意味（物語）を作成する事が知られています。その仕組みを学び、無機物の運動に関する映像を視聴し、物語の作成を試みます	学習したことをレポートにまとめます	2時間
第12回	**物語の作成** 無機物の運動に関する映像作品を複数視聴し、それに対し自由に物語を創作します。	学習したことをレポートにまとめます	2時間
第13回	**映像表現のまとめ（1）—アニメーション映画について—** 長編のアニメーション映画（第14回で視聴する作品と同一テーマ）を視聴し、これまで学んできた構造分析とキャラクター分析を行い、その内容をまとめます	学習したことをレポートにまとめます	2時間
第14回	**映像表現のまとめ（2）—実写映画について—** 長編の実写映画（第13回で視聴した作品と同一テーマ）を視聴し、これまで学んできた構造分析とキャラクター分析を行い、その内容をまとめます	これまでの学習をまとめてください	2時間

721

授業科目名	**舞台パフォーマンスⅡ**				
担当教員名	美月 亜優				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV,ラジオでの出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

五感と身体全体を使っていきながら、自分自身を見つめ、自己表現を身につけていきます。体全体を使って、音楽とリズムを体感します。メロディーに感情をのせて歌唱します。感情の台詞を使って心と身体の一体化を体感し、感性豊かな人間力を目指します。様々なキャラクターを演じていくことで、体験したことのない境遇や性質について体感し、人間の深みや広さや優しさについて考え、自分自身を大切に出来る、魅力溢れる人間作りを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	歌唱、ダンス、芝居	リズム感、音感、感性を向上することができる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		シナリオを使って役を表現したり、感情をのせてダンスしたり歌唱することができる。
2. DP9.役割理解・連携行動		台詞の持つ意味を考えたり、相手との距離感を測りながら芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・その他(以下に概要を記述)
　他の人の実演も見学し、自分を見つめ直します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	50 %	： 毎回の課題をどれだけ理解し演じているか。
授業態度	30 %	： 挨拶、マナーが守られているか。他の人の実演も見学し、マナー良く見ているか。積極的に参加しているか。
試験（発表）	20 %	： どれだけの読解力が身につき、挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業の前後に質問に応じます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発声、歌稽古、立ち稽古：感情の表現について** 様々な作品を通して、舞台での所作事や、せりふや動作の意味を考えながら、感情を表現していく。 音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞、動きについて考え稽古する。	4時間
第2回	**発声、歌稽古、立ち稽古：キャラクターについて** 演じるキャラクターや、相手との距離感、間について考える。 音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第3回	**発声、歌稽古、立ち稽古：大きく動作する** 稽古場を大きく使って、大きく動作出来るように考え、思いきり演じる。	自然な動きと大きく動作するということをもう一度考える。次回のプリントに目を通す。	4時間
第4回	**発声、歌稽古、ダンス振り付け：それぞれの部位の動かし方を考え、身体全体で表現することを体感する。** 体を使って感情を表現する。手、足、胴、頭などそれぞれの部位の動かし方を体験し、ダンスの型を覚える。音楽に合わせて踊ってみる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	スムーズに体が動くように、ダンスの反復練習をする。	4時間
第5回	**発声、歌稽古、ダンス振り付け：音楽、リズム、感情表現について体感する。** ダンスの振りを覚える。音楽、リズム、感情の強弱が一体化するようお稽古する。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	振りの反復練習をする。	4時間
第6回	**発声、歌稽古、ダンス振り付け：感情をのせてダンスをする。音楽と身体表現の一体化について考える。** スムーズに感情を乗せて、ダンスする。見られている意識、見せる意識について考える。	鏡の前で振りを思い出し、自分の動き方やポーズの形、リズム感について確認する。次回のプリントに目を通す。	4時間
第7回	**発声、歌稽古、立ち稽古：和物の芝居について** 和物の芝居を体感する。和の所作事、それぞれの人物の歩き方、所作について考える。お客さんがいると設定して、演じている側とみている側とのギャップについて考え、常に自分を客観視出来る力を身につけていく。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第8回	**発声、歌稽古、立ち稽古：芝居の型について** 喜怒哀楽の強弱をはっきりつけて、大きく芝居をする。普段と舞台の違いを考える。普段と台詞が決まった芝居の空間との違いを考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第9回	**発声、歌稽古、立ち稽古：役柄について** 台詞と動きの一体化、感情移入して役柄を演じる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	舞台での立ち振る舞い方、間隔をもう一度頭で確認する。見せる側、見ている側双方から自分を客観視して考えてみる。次回のプリントに目を通す。	4時間
第10回	**発声、歌稽古、立ち稽古：悲恋物の芝居** 悲恋物の芝居を体感する。それぞれの役の生い立ちや、関係、様々な出来事で、状況、感情について考え、普段の生活ではありえないようなことを、お芝居を通してヴァーチャル体験をし、登場人物の生きる様を体感する。音感、感情を意識しながら歌唱する。	それぞれの人物について、深く掘り下げて考える。	4時間
第11回	**発声、歌稽古、立ち稽古：思いの伝え方** それぞれの場面での台詞の掛け合いでその人物に成り切って、思いを伝える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞に感情移入しての反復練習をする。	4時間
第12回	**発声、歌稽古、立ち稽古：演じ分けについて考える** 様々な役を演じ分け、どういう風に演じれば、相手がやり易いのか、どういう風に演じてもらえれば、自分がやり易いのか、様々な角度から台詞を考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	登場人物のキャラクター、役割について、掘り下げて考える。	4時間

第13回	**発声、歌稽古、立ち稽古の総仕上げ** 総仕上げ。感情移入して、それぞれの役を演じきる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	自分の日常生活においての感情、感覚、他人を観たり感じる感覚と、台本の中の登場人物の、感情の起伏の中に、似たような感覚を、見い出す作業をしてみる。次回のプリントに目を通す。	4時間
第14回	**まとめ：舞台芝居と普段との違い、感情表現について考える** セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じる。心と体と感情を一体化して演じてみる。	授業内容を振り返る。普段の日常生活においても、感性、感覚の向上に努め、センスの良い品格と、マナーの良い態度、周囲にも自分にも優しい人間性を心掛けて、心豊かな人間に成長していって欲しいです。	4時間

721

授業科目名	**日本の文学**				
担当教員名	**浅野 法子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では日本の近代文学作品を対象に、講読を通して作者を理解し、作品の背景を学びます。また、近代文学の特徴をあらわすいくつかのキーワード（主に「アジア」、「女性」、「子ども」等）に基づき、作品を読み解くことを試みます。
基本的には講義形式で進めますが、作者と作品の背景については、毎回のテーマごとに分担し、発表形式も取り入れます。毎回ひとつの作品を読み込み、意見交換をすることで、さまざまな解釈に気づくことも目的としています。近代という時代の特徴についても考えていきましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	日本の近代文学研究	文学作品を分析することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		文学作品をクリティカルに分析できる。
2. DP7.完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	20 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30 %	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2-3ポイント、理解不足は1ポイント。
受講態度	20 %	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

プリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： 授業前後にも受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス・近代という時代について** ・授業の進め方 ・発表の分担 ・情報の収集方法、文献の調べ方について	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第2回	**国語科教科書掲載の近代文学作品について** ・作家について ・作品講読 ・教科書というメディアについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第3回	**児童文学というジャンル** ・子どもの「発見」について ・作品講読 ・子どもの文学の特徴について考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第4回	**アジアの国語科教科書に掲載された日本の作品について** ・作家について ・作品講読 ・中国、台湾、韓国の場合	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第5回	**樋口一葉：日本近代文学にみるジェンダー** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第6回	**夏目漱石：「青年」というイメージ** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第7回	**鈴木三重吉：児童雑誌「赤い鳥」** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える ・大正期の雑誌媒体について	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第8回	**芥川龍之介：児童向けの作品にみるエゴイズム** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第9回	**宮澤賢治：「童話」という形式** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第10回	**安部公房：「変身」の意味** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第11回	**中島敦と漢籍** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第12回	**新美南吉：中国関連の作品や中国で発表された作品について** ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第13回	**日本近代文学と東アジア** ・近代の作家と東アジアについて考える ・作品講読	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。	4時間
第14回	**中国近代文学にみる日本**	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく	4時間

・授業のまとめをし、印象に残った作品について話し合う		

721

授業科目名	**海外文化演習**				
担当教員名	**工藤 律子**				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

この授業は2月実施予定のセブ島英語研修参加者のための演習です。
研修先での生活をスムーズに開始し、現地での語学研修生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学習します。研修先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるように指導します。
なお、本科目は語学研修と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	語学の基礎知識：研修先での生活を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。	出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。
2. DP7.完遂		積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価しない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前授業における参加状況	20 %	： 授業内での積極的な発言および取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
語学研修中での生活・学習状況	50 %	： 現地語学学校のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。
事後授業における到達状況	30 %	： レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せずプリントを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。
研修に参加するだけでなく、事前・事後学修にも十分に力を入れること。
授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。
セブ島語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　研究室

備考・注意事項：　授業外でも、メールで時間を調整後、質問に応じる。メールでの質問も可能。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**海外研修について学ぶ** 語学学習、海外研修の意義や目的について学ぶ	各自、留学の意味、目的について考える	2時間
第２回	**英語の基礎的な学力を確認する** 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	2時間
第3回	**英語の会話文例を学ぶ** 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	話文例の復習、不明点のチェック	2時間
第4回	**海外の生活習慣・文化について理解する** 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	2時間
第5回	**海外語学研修（1日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第6回	**海外語学研修（2日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第7回	**海外語学研修（3日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第8回	**海外語学研修（4日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第9回	**海外語学研修（5日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第10回	**海外語学研修（6日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第11回	**海外語学研修（7日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第12回	**海外語学研修（8日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第13回	**海外語学研修（9日目）** 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第14回	**語学研修で習得したことを整理する** 語学研修を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	2時間

721

授業科目名	**学外連携キャリア演習A（インターンシップ）**				
担当教員名	浅野 法子・田中 哲平				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期集中	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、国際交流機関や一般企業において夏休みに原則１週間を基本とした研修・実習を体験します。現場はさまざまですが、現地での研修を通して、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。
事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面接によってインターンシップ先を決定します。決定後は現地での実習、実習後のインターンシップ先からの評価、レポートの提出、事後指導などがあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。	決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること
汎用的な力		
1. DP7.完遂		自身の目標を立て、企業の業務内容の把握、実行し、指導、評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。
インターンシップ期間中の交通費は自己負担となります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
現地での研修	70 %	： インターンシップ先での実習の評価
事前・事後学習	30 %	： インターンシップ前の学習と事後のレポートを評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

・教室での事前学習２回、企業でのビジネスインターンシップ４０時間～７０時間、教室での事後学習２時間を授業として行います。
・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野（水曜3限）

場所： 各研究室

備考・注意事項：　上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**インターンシップ先の研究** 事前学習：インターンシップ先の理解を進めます。 インターンシップ先は国際交流機関や一般企業や教育機関などです。	インターンシップ先を研究をしておくこと	2時間
第２回	**身だしなみのチェックリストの作成・業務の学習・目標設定** 事前学習 ・基本的な身だしなみや言葉遣いの習得 身だしなみ、挨拶、言葉遣い等の講義とロールプレイを実施し、ビジネスシーンにおけるマナーを習得します。 ・業務の確認をします。 ・目標を設定し、日誌のつけ方を確認します。	授業内容の確認	2時間
第３回	**インターンシップ開始** 現地研究１日目	日誌をつける	2時間
第４回	**インターンシップ** 現地研究２日目	日誌をつける	2時間
	現地研究３日目		
	現地研究４日目		
	現地研究５日目		
第８回	**事後まとめ** 事後学習、研修報告書を作成し、提出する。 これまでの体験をレポートにまとめる準備をする。	これまでの内容をまとめる	2時間

721

授業科目名	**学外連携キャリア演習B（インターンシップ）**				
担当教員名	浅野 法子・田中 哲平				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期集中	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、国際交流機関や一般企業において春休みに原則１週間を基本とした研修・実習を体験します。現場はさまざまですが、現地での研修を通して、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。
事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面接によってインターンシップ先を決定します。決定後は現地での実習、実習後のインターンシップ先からの評価、レポートの提出、事後指導などがあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。	決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること
汎用的な力		
1. DP7.完遂		自身の目標を立て、企業の業務内容の把握、実行し、指導、評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。
インターンシップ期間中の交通費は自己負担となります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
現地での研修	70 %	： インターンシップ先での実習の評価
事前・事後学習	30 %	： インターンシップ前の学習と事後のレポートを評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

・教室での事前学習２回、企業でのビジネスインターンシップ４０時間～７０時間、教室での事後学習２時間を授業として行います。
・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野（水曜3限）

場所： 各研究室

備考・注意事項：　上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**インターンシップ先の研究** 事前学習：インターンシップ先の理解を進めます。 インターンシップ先は国際交流機関や一般企業や教育機関などです。	インターンシップ先を研究をしておくこと	2時間
第２回	**身だしなみのチェックリストの作成・業務の学習・目標設定** 事前学習 ・基本的な身だしなみや言葉遣いの習得 身だしなみ、挨拶、言葉遣い等の講義とロールプレイを実施し、ビジネスシーンにおけるマナーを習得します。 ・業務の確認をします。 ・目標を設定し、日誌のつけ方を確認します。	授業内容の確認	2時間
第３回	**インターンシップ開始** 現地研究１日目	日誌をつける	2時間
第４回	**インターンシップ** 現地研究２日目	日誌をつける	2時間
	現地研究３日目		
	現地研究４日目		
	現地研究５日目		
第８回	**事後まとめ** 事後学習、研修報告書を作成し、提出する。 これまでの体験をレポートにまとめる準備をする。	これまでの内容をまとめる	2時間

722

授業科目名	グローバル中国語圏文化論				
担当教員名	浅野 法子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では文学作品や映画、サブカルチャー等から中華圏の歴史や文化に触れることを目的としています。とりわけ人物に焦点をあてながら、その背景にある歴史や文化について考えます。日本や欧米諸国とは異なる国や地域のひとつである中国語圏を知ることで、異文化に対するさまざまな考え方を知り、多文化共生社会を生きる上で必要な知識と態度を身につけます。
ここではそれぞれが関心をもったテーマを調査し、発表することを取り入れます。また、毎回の授業で中国語に着目し、言語からも中華圏への理解を深めることを試みます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	異文化やコミュニケーションに関する知識	異文化やコミュニケーションについて、学術的な定義づけや多数の事例をもとに、正しく理解することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		グローバル社会のなかで異文化理解をすることの意義や起こりうる問題点について、インターネットや書籍の情報をもとに検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	20 %	： プレゼンテーションについては、講義内容の理解と調査結果の充実、考察の独自性をもとに採点します。それぞれ20点満点とし、全部で評価の20%とします。
期末レポート	30 %	： 講義内容の理解と知識の定着を基準に採点します。30点満点とし、評価の30%とします。
意見文	30 %	： 意見文（毎回授業後に提出）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに評価で採点します。2-3ポイント×14回分で評価し、全体評価の30%とします。
小テスト	20 %	： 第5回目と第10回目に理解度をはかる小テストを実施します。１回分を10点満点とし、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野：水曜3限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：中国語圏とは** ・授業の進め方、評価方法について ・授業で取り上げる国や地域について ・日本人がみた中国語圏――著名人が記した中国語圏について知る ・中国語という言語について	・配布資料の予習（漢字について）	4時間
第2回	**ことば――漢字の世界** ・表意文字と表音文字について ・漢字の成り立ちについて 言葉の違い①：繁体字文化と簡体字文化	・配布資料の予習（ピンインについて）	4時間
第3回	**歴史①清末から中華民国まで** ・映画「宋家の三姉妹」鑑賞（一部） ・時代背景と登場人物について 言葉の違い②：発音について	・配布資料の予習（中国語の母音と子音）	4時間
第4回	**歴史②建国から現代まで** ・時代背景と人物について 言葉の違い③：母音と子音について	・配布資料の予習（「故郷」「藤野先生」を読む）	4時間
第5回	**文学①魯迅の文学と人について** ・魯迅の年譜を読む ・講読「故郷」「藤野先生」 言葉の違い④：声調と軽声について	・配布資料の予習（「みかんぢょうちん」を読む）	4時間
第6回	**文学②謝冰心の文学と人について** ・謝冰心の年譜を読む ・講読「みかんぢょうちん」 言葉の違い⑤：漢字の由来	・配布資料の予習	4時間
第7回	**伝承文学について** ・「むかしむかし」で始まる物語を講読し、日本の昔話との関連や、派生作品について考察する 言葉の違い⑥：あいさつ	・配布資料の予習	4時間
第8回	**香港映画：カンフーとキョンシー** ・関連映画一部鑑賞 ・作品の背景と登場人物について 言葉の違い⑦：名詞	・配布資料の予習	4時間
第9回	**台湾映画：「流星花園」** ・映画「流星花園」鑑賞（一部） ・作品の背景と登場人物について 言葉の違い⑧：動詞	・配布資料の予習	4時間
第10回	**大陸映画：武侠小説の映像化** ・関連映画一部鑑賞 ・作品の背景と登場人物について 言葉の違い⑨：肯定文と否定文	・配布資料の予習　・調査のまとめ	4時間
第11回	**歌謡曲とC-POP** ・歌手や歌から時代背景等を理解する 言葉の違い⑩：疑問文	・配布資料の予習　・調査のまとめ	4時間
第12回	**アニメーション** ・アニメーションから社会情勢を理解する 言葉の違い⑪：能願動詞	・配布資料の予習　・発表準備	4時間
第13回	**日本の中華街**	・配布資料の予習	4時間

	・身近な中国を探す 言葉の違い⑫：数の表現、曜日と時刻の表現		
第14回	**まとめ――異文化を理解する：発表のまとめ** ・講義内容の振り返り ・多文化共生社会を生きる上で必要な力について考える	・授業の振り返り　・レポートの提出準備	4時間

722

授業科目名	**異文化理解Ⅰ**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

グローバル化が進む21世紀において、さまざまな文化的差異を乗り越えて、あらゆる人が理解し合い共生できる社会を構築することが求められています。本科目では、そんな社会を構築するうえで必要な異文化理解力を培うため、英語圏の映像作品を題材として、その内容を理解するための背景知識を学習し、さらに英語と日本語の言語的、文化的違いを考察します。各授業では、英語の聴解・読解学習を英語力向上に生かすとともに、娯楽作品として描かれる文化的表象や台詞のなかにある異文化的要素を考察し、論理的に分析できる力を育成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本語と英語の言語的相違への理解、異文化理解	英語と日本語との比較を通じて、双方の文化や表現の違いについて説明できる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		日本語と英語の文化の違いに基づいた表現の違いを理解し、適切な表現を用いて意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	30 %	： 毎回の授業の最初に、前回の授業の理解度を測る小テスト（参照可）を実施します。全体の平均点を評価の30%とします。
授業内課題	40 %	： 授業内課題として、複数回授業内容の理解に基づいた論述レポートを課し、その提出状況と内容への評価点をもとに、評価の40%とします。
期末レポート	30 %	： 14回授業後に、講義内容に基づいて、自分で作品を選び論述する最終レポートを提出します。その結果を、評価の30%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

SCREENPLAYシリーズ（名作英語完全セリフ音声集）
①『バック・トゥ・ザ・フューチャー』
②『プラダを着た悪魔』
③『ノッティングヒルの恋人』
④『ローマの休日』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、異文化理解力とは** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・異文化理解力とはなにかをグループで話し合います。	第1回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第2回	**文化とコミュニケーション①ー『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に見る異文化コミュニケーション** ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第2回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第2回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第3回	**文化とコミュニケーション②ー『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の考察** ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』における娯楽性の要因となっている文化的相違について、1950年代と1980年代のアメリカ社会の相違という観点から考察します。	第3回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第4回	**文化とコミュニケーション③ー文化的差異を生む要素とは** ・『バック・トゥ・ザ・フューチャー』における娯楽性の要因となっている文化的相違について、1950年代と1980年代のアメリカ社会の相違という観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「文化」「コミュニケーション」の定義を学びます。	第4回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第4回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第5回	**文化と価値観①ー『プラダを着た悪魔』に見る価値観** ・『プラダを着た悪魔』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『プラダを着た悪魔』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第5回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第6回	**文化と価値観②ー『プラダを着た悪魔』の考察** ・『プラダを着た悪魔』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『プラダを着た悪魔』における価値観の相違のポジティブな効果とネガティブな効果について、アンディとミランダの対立という観点から考察します。	第6回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第6回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第7回	**文化と価値観②ー文化と価値の関連性とは** ・『プラダを着た悪魔』における価値観の相違のポジティブな効果とネガティブな効果について、アンディとミランダの対立という観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「文化と価値観」についての定義を学びます。	第7回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第8回	**【小括】コミュニケーション・文化・価値の関係についての考察** ・第2～7回の授業内容を振り返り、「コミュニケーション・文化・価値」というテーマでプレゼンテーションを行います。	第８回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第８回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第9回	**言語・非言語的コミュニケーション①ー『ノッティングヒルの恋人』に見る非言語** ・『ノッティングヒルの恋人』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『ノッティングヒルの恋人』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第９回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間

第10回	**言語・非言語的コミュニケーション②ー『ノッティングヒルの恋人』の考察** ・『ノッティングヒルの恋人』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ノッティングヒルの恋人』におけるコミュニケーションの多様性について、イギリス人男性とアメリカ人女性のコミュニケーション・スタイルという観点から考察します。	第10回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第10回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第11回	**言語・非言語的コミュニケーション③ーコミュニケーションの多様性とは** ・『ノッティングヒルの恋人』におけるコミュニケーションの多様性について、イギリス人男性とアメリカ人女性の言葉遣いの相違という観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「言語・非言語的コミュニケーション」の定義を学びます。	第11回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第12回	**言語・階級・ジェンダーー①ー『ローマの休日』に見る階級意識** ・『ローマの休日』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『ローマの休日』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第12回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第12回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第13回	**言語・階級・ジェンダーー②ー『ローマの休日』の考察** ・『ローマの休日』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ローマの休日』における階級差からくる言葉遣いの差について、コミュニケーションスタイルの違いという観点から考察します。	第13回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。自分のプレゼンテーションで扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第14回	**言語・階級・ジェンダーー③ーコミュニケーション・スタイルの違いとは** ・『ローマの休日』における階級からくる言葉遣いの差について、コミュニケーションスタイルの違いという観点から考察したことをまとめます。 ・異文化理解における「言語」「階級」「ジェンダー」の定義を学びます。	これまで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。最終レポートの準備をします。	4時間

722

授業科目名	**異文化理解Ⅱ**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、前期科目「異文化理解 Ⅰ」に引き続き、グローバル社会を共生していくために必要な異文化理解力を培うことを目的とします。各授業では、英語圏の映像作品を題材として、その内容を理解するための背景知識を学習し、さらに英語と日本語の言語的、文化的違いを考察します。前期科目より難易度の高い題材－歴史的・文化的背景の知識がより求められる文脈依存度の高い題材―に取り組むことによって、更に高度な異文化理解力を身につけていくことを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本語と英語の言語的相違への理解、異文化理解	英語と日本語との比較を通じて、双方の文化や表現の違いについて説明できる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		日本語と英語の文化の違いに基づいた表現の違いを理解し、適切な表現を用いて意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 毎回の授業の最初に、前回の授業の理解度を測る小テスト（参照可）を実施します。全体の平均点を評価の20%とします。
授業内課題	40 %	： 授業内課題として、複数回授業内容の理解に基づいた論述レポートを課し、その提出状況と内容への評価点をもとに、評価の40%とします。
プレゼンテーション	20 %	： 第14回目の授業に、自分で選択した英訳版の作品と原作との比較、分析をプレゼンし、その内容に応じて評価の20%とします。
期末レポート	20 %	： 14回授業後に、プレゼンテーションの内容に基づいて、自分で作品を選び論述する最終レポートを提出します。その結果を、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

SCREENPLAYシリーズ（名作英語完全セリフ音声集）
①『英国王のスピーチ』
②『食べて・祈って・恋をして』
③『ロミオ＆ジュリエット』

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、異文化理解と歴史的・文化的背景知識の重要性** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・異文化理解のために必要となるものはなにかをグループで話し合います。	第1回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第2回	**1920年代のイギリス①ー『英国王のスピーチ』に見る英国的性質** ・『英国王のスピーチ』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『英国王のスピーチ』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第2回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第2回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第3回	**1920年代のイギリス②ー『英国王のスピーチ』原作と映像作品の比較・分析** ・『英国王のスピーチ』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『英国王のスピーチ』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。	第3回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第4回	**1920年代のイギリス③ー『英国王のスピーチ』における敬語・ユーモア・スピーチの作法** ・『英国王のスピーチ』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『英国王のスピーチ』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。 ・原作と映像化作品の言語的特徴について理解します。	第4回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第4回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第5回	**【小括】『英国王のスピーチ』における原作・映像化の相違についての考察** ・第2～4回の授業をつうじて考察したことをまとめます。 ・各自の考察をグループで話し合います。	第5回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第6回	**2010年代のアメリカ①ー『食べて・祈って・恋をして』に見るアメリカ的性質** ・『食べて・祈って・恋をして』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『食べて・祈って・恋をして』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第6回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第6回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第7回	**2010年代のアメリカ②ー『食べて・祈って・恋をして』原作と映像作品の比較・分析** ・『食べて・祈って・恋をして』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『食べて・祈って・恋をして』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。	第7回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第8回	**2010年代のアメリカ③ー『食べて・祈って・恋をして』における異文化表象** ・『食べて・祈って・恋をして』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『食べて・祈って・恋をして』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。 ・原作と映像化作品の言語的特徴について理解します。	第８回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第８回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第9回	**【小括】『食べて・祈って・恋をして』における原作・映像化の相違についての考察** ・第6～8回の授業をつうじて考察したことをまとめます。 ・各自の考察をグループで話し合います。	第９回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間

第10回	**現代に蘇った古典①ー『ロミオ＆ジュリエット』に見る文化の新旧** ・『ロミオ＆ジュリエット』についての予備知識を身につけるため、情報を集めます。 ・『ロミオ＆ジュリエット』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。	第10回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第10回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第11回	**現代に蘇った古典②ー『ロミオ＆ジュリエット』原作と映像作品の比較・分析** ・『ロミオ＆ジュリエット』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ロミオ＆ジュリエット』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。	第11回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第12回	**現代に蘇った古典③ー『ロミオ＆ジュリエット』における原作とアダプテーション** ・『ロミオ＆ジュリエット』を聴解し、字幕と英語のスクリプトとの比較をして、相違を分析します。 ・『ロミオ＆ジュリエット』原作を読解し、原作と映像化作品との比較をして、相違を分析します。 ・原作と映像化作品の言語的特徴について理解します。	第12回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第12回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。	4時間
第13回	**【小括】『ロミオ＆ジュリエット』における原作・映像化の相違についての考察** ・第9～12回の授業をつうじて考察したことをまとめます。 ・各自の考察をグループで話し合います。	第13回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。自分のプレゼンテーションで扱う作家や作品について調べておきます。	4時間
第14回	**3作品の比較・分析、プレゼンテーション** ・これまでの3作品を比較、分析し、その結果をまとめます。 ・プレゼンテーションの作法を学びます。 ・プレゼンテーションを実施します。	これまで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。最後の期末レポートの準備をします。	4時間

722

授業科目名	**児童英語指導法Ⅲ**				
担当教員名	**工藤 律子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、実践的な指導法（歌・絵本・チャンツを利用した指導法）を学びます。また、小学生への４技能指導について、模擬授業を通して実践力を身につけます。指導案は複雑なものではなく、モデル案にそって行います。この講座はあくまでも楽しく英語を子供に教えたいということが基本となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	様々な英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	歌や絵本などを通した指導法を学ぶ。	多くの歌や絵本にふれ、指導実践を行う。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	10 %	： 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
小レポート	30 %	： 英語指導法に必要な知識をまとめる。
期末レポート	30 %	： 第14回の授業後に歌・絵本・チャンツなどを利用した授業、レッスンプラン、フォニックスルールについてのレポートを行います。
模擬授業・発表・フィードバック	30 %	： 模擬授業・発表の内容を評価する。フィードバックのコメントを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小川隆夫・東仁美	・小学校英語　はじめる教科書　改訂版	・mpi	・2021　年
山下千里・岩本由美子	・子供のための英語で自己表現ワーク１	・mpi	・2008　年
酒井英樹等	・CrownJr５・６	・三省堂	・2020　年

参考文献等

「Songs and Chants 」「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」「英語で自己表現ワーク２・３」「This is phonics 1」「This　is Phonics 2」「小学校学習指導要領解説　外国語・外国語活動編」「We　Can１・２」
そのほかの参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　西館５５

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**中学年や高学年のそれぞれに適した様々な活動や題材の選定の仕方・教材開発の仕方／ICT活用の仕方（取り入れ方）①** 児童の興味・関心や他教科、国際理解教育、学校行事を理解し、それに会う教材や題材を考える。 学習への興味・関心を高めるICTの活用法を考え、その効果とメリットについて考える。	テキストを読み、理解すること	4時間
第２回	**単元構成・年間授業計画　演習／英語によるやりとりの仕方の指導（具体的事例）①** 教科書を元に、年間の授業計画、単元計画を立てる。児童がやり取りをする場面を想定し、ジェスチャーを交えた定型表現を理解する。	年間の授業計画・単元計画の見直し	4時間
第３回	**１時間の授業構成の仕方、指導案の作成法　演習／英語によるやりとりの仕方の指導　（発話の引き出し方）②** 教科書を元に、１時間の授業構成を作成し、指導案を作成する。モジュール型授業を体験する。英語のやりとりにおいて、指導者が児童をサポートしたり、児童同士がサポートし合えたりする環境を考える。	授業構成の見直し	4時間
第４回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方の理解／文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（具体的事例）　演習①** 文字提示のタイミング、音声で慣れ親しんだ単語などを文字で読むことにつなげる指導を理解する。「大文字・小文字」から基本的な表現を用いて自分のことや身近な事柄について書く指導を理解する。音と綴りの関係の指導を体験する。	具体的事例を理解し次の時間の指導案作成の資料作り	4時間
第５回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（指導案作成と授業実演）　演習②／ICT活用の仕方（具体的事例）②** 音と綴りの関係の指導案を作成し、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。 併設高校のICT活用事例を学ぶ。	指導案を再構成する	4時間
第６回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（歌や絵本を利用）　演習③** 歌や絵本を選んで、「読むこと」「書くこと」の指導案を作成する。	指導案を再構成する	4時間
第７回	**文字言語の与え方、読む活動、書く活動への導き方（授業実演）　演習④** ６回で作成した指導案を元に模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第８回	**歌・マザーグース・チャンツの指導（指導案作成）　演習①** 指導案を作成する。	指導案を再構成する	4時間
第９回	**歌・マザーグース・チャンツの指導（模擬授業）　演習②** ８回で作成した指導案を基に、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第10回	**絵本指導・読み聞かせ指導（指導案作成）演習①** 指導案を作成する。	指導案を再構成する	4時間
第11回	**絵本指導・読み聞かせ指導（授業実演）　演習②** 第１０回で作成した指導案を基に、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第12回	**発表活動の指導（活動の体験）　演習①** Show&Tellを用いた活動を体験し、発表に対するコメントの練習を行う。	活動内容の復習	4時間

第13回	**発表活動の指導（授業実演）　演習②** Show&Tellを用いた指導案を作成し、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する	4時間
第14回	**様々な評価の方法** 「小学校　学習指導要領」に示された、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」と「パフォーマンス評価」を理解する。パフォーマンス評価がふさわしい単元を選び、パフォーマンス課題とルーブリックを作成し、発表を行い、互いにフィードバックを得る。	評価に関する考えをまとめる	4時間

722

授業科目名	**英語プレゼンテーション**				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションで必要な英語の指導を２０年行ってきました。また、カリキュラムの作成や１２年間一貫教育の内容にも携わってきました。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

様々なプレゼンを通して、自分に合ったスキルを身につける授業です。プロジェクトを経験しながら、提案や説得ができる、あるいは、効果的に情報伝達ができる英語力も養います。少しずつ慣れていけるステップアップ方式で行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	論理的思考力	母語を用いて論理的に考えをまとめることができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	言語・非言語を用いた効果的プレゼンテーション	自分の考えを他者へ適切に伝えることができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		様々な社会問題をテーマとして、何が課題であり、またその課題をどのように解決できるかを考える。
2. DP9.役割理解・連携行動		異なる価値観を尊重する姿勢を持ち、他者と協力して自らの学びを深めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
発表	40 %	： 授業内でプレゼンを実施し、内容とプレゼンのスキルを評価する。
レポート	20 %	： 授業の中でレポートの形式は説明する。授業で話し合った内容や、または与えられたトピックに関する自分の意見をレポートとして提出してもらう。
授業への貢献度	20 %	： ディスカッションやグループワークの姿勢を評価する。
期末レポート	20 %	： 第14回の授業後に、日英両方のレポートを課す。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake etc	・Presentations to Go	・Cengage Learning	・2014 年

参考文献等

その他の参考文献等は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業に関する質問が多い場合は、事前にメール（kudoh-r@osaka-seikei.ac.jp)を送ること。メールには氏名と所属を明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**プレゼンテーションリテラシー** プレゼンテーションの基礎を学ぶ	必要なスキルを理解し、口頭試問に備える。	4時間
第2回	**自己紹介で自分をアピールする　知識編** 自己紹介を英語で行うことができる。自分の過去、現在、将来について英語で述べることができる。自分の興味、性格、長所、短所について英語で説明できる。自分に関する英語の語彙、表現に慣れる。内容と時間からプレゼンテーションを適切に構成することができる。次回の発表の準備を行う。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第3回	**自己紹介で自分をアピールする　発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第4回	**News Digest　知識編** 事実を客観的に英語で述べることができる。ニュースをrewrite し伝えることで、ニュース英語の語彙や表現に主体的に親しむ。国内、海外、芸能・スポーツ、自分の大学のニュースを英語で伝える。グループとして、それぞれの項目を英語でまとめ、つなげる。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第5回	**News Digest 発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第6回	**promoting vacation plan　知識・ディスカッション編** 自分たちの企画を英語で推し進め、企画のためのリサーチを英語で行う。プロモーション（説得）のための英語の語彙や表現に慣れる。グループでまとまった内容を英語で伝える。	ディスカッションした内容をまとめる。	4時間
第7回	**promoting vacation plan　作成編** バケーションプランを各自でまとめ、PPで表現する。また、グループで発表の練習を行う。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第8回	**promoting vacation plan 発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第9回	**Introducing Japan　知識・ディスカッション編** 日本の魅力を海外に英語で伝えるためのリサーチを英語で行い、「 日本」を説明する語彙や表現に慣れる。	話し合った内容をしっかりとまとめる。	4時間
第10回	**Introducing Japan　作成編** 日本の魅力を各自でまとめ、PPを用いて発表する準備する。発表に向けた練習をグループで行う。	次回の発表に備えて準備する。	4時間
第11回	**Introducing Japan 発表編** プレゼン準備後、発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間
第12回	**Discussing Social Issues　知識・ディスカション編** 様々な社会問題について考える。 問題についてのリサーチを英語で行い、社会問題を議論する英語の語彙、表現に慣れる。 グラフを英語で説明し、グループでまとまった議論の展開を英語で行う。	将来についてのスピーチを準備する。	4時間
第13回	**Talking About Your Futre Plan / Discussing Social Issues　作成編**	次回の発表に備えて準備する。	4時間

	自分の将来について、決められた時間内で英語で話す。また、内容に関する質疑応答に答える。 第14回のプレゼンについてグループでディスカッションした内容をPPを用いてまとめる。		
第14回	**Discussion Social Issues 発表編** 発表をし、お互いフィードバックを与え、自己評価する。	評価シートを見て、自分の課題を書きあげ、解決策を書く。	4時間

722

授業科目名	**日本語ライティング**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

単位レポート（研究レポート）の書き方については１年次に複数の講座で学んできたはずですが、十分に活かされていないように見受けられます。それに、２年次後期には「卒業研究」が控えています。
本講座では、夏目漱石『夢十夜』を対象に、１作品の選定、２資料・先行研究の探索、３収集資料の読み込み（研究ノートづくり）、５テーマの焦点化、６論文の構造と書式の確認、７論文執筆（草稿）、８中間発表、９論文推敲、10論文完成という過程を実際に体験しつつ、レポートを１本（2400字）執筆・完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	研究レポート執筆のための、資料探索・先行研究整理・課題発見・論述という一連の過程について理解する。	研究レポートの完成過程を理解することができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	探索および整理の後、発見した課題について的確な表現を選びながらレポートを執筆する。	2400字の研究レポートを実際に執筆することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。
2. DP5.計画・立案力		理解した対象について、表現するための行程を考えることができる。
3. DP7.完遂		自身が立案した行程にしたがい、レポートを執筆することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート	30 %	： 各回に提出するワークシートの記述により、よく理解できている＝2点、概ね理解できている＝1点、十分に理解できていない＝0点とします。
報告	20 %	： 執筆した草稿の報告・質疑応答を、ひとり15分程度実施します。聞き手は評価票を記入します。なお、評価基準については評価票に明示します。
受講態度	20 %	： 各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料の整理状況により、評価します。
最終課題（期末レポート）	30 %	： 論題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
夏目漱石（作）、しきみ（絵）	・ 夢十夜	・ 立東舎	・ 2018　年

参考文献等

今野雅方『考える力をつける論文教室』（ちくまプリマー新書）
東郷雄二『新版　文化系必修研究生活術』（ちくま学芸文庫）

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がない場合、最終レポートの提出がない場合は放棄とみなし、成績評価を「ー」（評価しない）とします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 西館（図書館横）５階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**夏目漱石の作品世界―作家の伝記的事実と作品事例・第一夜を読み解く―** 第１回からすぐに演習に入るので、登録者は必ず出席すること。 高校時代に国語の授業で『こゝろ』に出会った人も多いだろう。本時は、作家・夏目漱石の年譜を踏まえた上で、『夢十夜』に収載された「第一夜」の読解に取り組み、本講座で対象とする彼の作品世界の雰囲気を捉えていく。	テキスト『夢十夜』の中から自分がレポートの対象とする作品を１つ選定しておく。	4時間
第2回	**『夢十夜』の方法―第二夜「和尚の室を退がって、廊下伝いに自分の部屋へ帰ると…」を読み解く―** 『夢十夜』の語りの方法について、「第二夜」を読み進めながら、物語要素を分析する形で確認作業を行う。	自分がレポートの対象として選定した作品を読み込んでおく。	4時間
第3回	**『夢十夜』の構造―第三夜「六つになる子供を負ってる。たしかに自分の子である…」／文献・資料検索の仕方―** 第１・２回に続き、『夢十夜』の作品世界が持つ特有な雰囲気について、「第三夜」を対象として捉えていく。また、インターネットを用いた資料・文献検索の仕方について再確認するとともに、第１～２回の授業外学修課題のうち、自身がレポートで扱う作品を１つに絞り、先行研究などのリスト作成の準備をする。さらに、選定作品（第六夜～第十夜）に基づき、作業グループを決定する。	自分が選んだ作品の先行研究・文献資料リストを指定書式で作成し、次時までに収集する。	4時間
第4回	**グループ討議（1）―先行研究・文献共有リスト作成／作家・作品に関する調査分担―** 各グループで先行研究を提示し合い、共有リストを作成する。また、作品理解のため、調査すべき項目をグループで討議し、決定する。例えば、作品の舞台となった地誌・背景となっている事柄・登場人物のモデルとされる人物など。	グループにおける分担にしたがい、調査・資料収集を行う。	4時間
第5回	**グループ討議（2）―選定作品の粗筋・読解上の問題点の整理―** 前時に分担した調査事項について報告し合う。また、作品を読み解く上で注目すべきポイントや疑問点などについて討議する。討議後、各自でワークシートに選定作品の粗筋を800字程度でまとめ、自身の論文の構想メモを書いて提出する。次時の報告に備え、一人１つずつ先行研究の報告分担を決定する。研究ノートの作り方についても確認する。	次時の報告に備え、担当した先行研究を読み込み、１枚のレジュメにまとめる。	4時間
第6回	**グループ討議（3）―先行研究の内容に関する報告―** 各自が用意したレジュメをもとに、先行研究の内容について報告し合う。各自、ワークシートに共有した内容についてまとめ、提出する。	第9回からの研究レポート執筆に備え、各自、先行研究に目を通しておく。	4時間
第7回	**第四夜「広い土間の真中に涼み台のようなものを据えて…」を読み解く** 第３回に続き、『夢十夜』の作品世界が持つ特有な雰囲気について、「第四夜」を対象として捉えていく。また、１年次に既習の研究レポートの書き方全般について再確認する。	第9回からの研究レポート執筆に備え、各自、構想メモの見直しを行う。	4時間
第8回	**第五夜「何でもよほど古い事で、神代に近い昔と思われるが…」を読み解く** 第７回に引き続き、『夢十夜』の作品世界が持つ特有な雰囲気について、「第五夜」を対象として捉えていく。また、研究レポートの書き方のうち、レポートのねらい・先行研究の書き方について確認する。	次時の研究レポート執筆に備え、先行研究の整理・構想メモの再確認を行う。	4時間
第9回	**研究レポート執筆（1）―【序論】草稿をまとめる―** 研究レポートの【序論】を書き進める。疑問の生じた場合は、グループでの相談、授業担当者との相談を、適宜、行いながら執筆する。	序論が仕上がっていない場合は、次時までに完成させる。	4時間
第10回	**研究レポート執筆（2）―【本論】草稿をまとめる―** 研究レポートの【本論】を書き進める。疑問の生じた場合は、グループでの相談、授業担当者との相談を、適宜、行いながら執筆する。	本論が仕上がっていない場合は、次時までに完成させる。	4時間

第11回	**研究レポート執筆（3）―【結論】草稿をまとめる―** 研究レポートの【結論】を書き進める。疑問の生じた場合は、グループでの相談、授業担当者との相談を、適宜、行いながら執筆する。	結論が仕上がっていない場合は、次時までに完成させる。次時の報告担当者は、報告の準備をする。	4時間
第12回	**中間報告（1）―「第六夜」「第七夜」「第八夜」担当者―** 執筆した草稿を元に、「第六夜」「第七夜」「第八夜」の担当者が、それぞれ15分程度の中間報告・質疑応答を行う。	報告者は、本時の討議を踏まえてレポートの改稿をする。次時の報告担当者は、報告の準備をする。	4時間
第13回	**中間報告（2）―「第九夜」「第十夜」担当者―** 執筆した草稿を元に、「第九夜」「第十夜」の担当者が、それぞれ15分程度の中間報告・質疑応答を行う。	報告者は、本時の討議を踏まえてレポートの改稿をする。次時の報告担当者は、報告の準備をする。	4時間
第14回	**全体のまとめと最終課題（期末レポート）の確認** 文学作品を読み解くということ、研究レポートをまとめるということについて、これまでの取り組みを振り返りながら、グループで達成点や反省点について討議する。また、定期試験期間中に提出する最終レポートの書式等について告知・確認する。	最終課題（期末レポート）の提出に向け、草稿に手を入れつつレポートを完成させる。	4時間

722

授業科目名	**日本の古典文学**				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講座では、小泉八雲ことラフカディオ・ハーンの著作『怪談・奇談』（現代語で書かれたものです）を講読し、日本の古典文学に対する理解を深めていきます。ただし、この著作に収められた物語は、素材の多くが日本の古典作品なのですが、そこに《外国人であるハーンの眼》というフィルターの介在する、作家ハーンの作品世界でもあります。したがって、《外国人の眼というフィルターを通して私たちの古典作品に出会い直す》というのが、本講座の取り組みとなってきます。最初の４作品については、映像作品も併せて視聴しますので、古典時代の文化・生活習俗（衣・食・住など）についても視覚的に理解できるはずです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日本の古典文化について知ることや、〈怪談・奇談〉の作品世界について理解すること。	時代的（当代的）な要素を踏まえ、日本古典の内容について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		古典の表現や文化的背景を通し、現代の文化や事象の捉え返しと課題を見出すことができる。
2. DP8.意思疎通		現代の文化とは異質な古典の文化を踏まえた上で、そこに記された古人の思いを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート	40 %	： 各回の授業後に提出するワークシートの記述により、よく理解できている＝3点、概ね理解できている＝2～1点とします。
報告	20 %	： テーマを決めた上で、個人・グループによる報告を１回～３回実施します。
受講態度	10 %	： 各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料の整理状況（ファイル提出）により、評価します。
定期試験（期末レポート）	30 %	： 設問に対する理解と、記述内容により評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
ラフカディオ・ハーン	・ 角川文庫『怪談・奇談』	・ KADOKAWA	・ 1956 年

参考文献等

必要に応じ、講義時に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　西館（図書館横）５階研究室

備考・注意事項：　その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の基礎知識** ラフカディオ・ハーンの伝記資料を確認するとともに、さまざまな時代を舞台として彼が聞き取り描き留めた作品世界の概略について学修します。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる作品『和解』についてリサーチしておく。	4時間
第2回	**『和解』の作品世界を読み解く** 『和解』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『和解』を読み返しておく。	4時間
第3回	**映画『和解』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品である『和解』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる『雪女』についてリサーチしておく。	4時間
第4回	**『雪おんな』の作品世界を読み解く** 『雪おんな』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『雪おんな』を読み返しておく。	4時間
第5回	**映画『雪おんな』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品『雪おんな』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる『耳なし芳一のはなし』についてリサーチしておく。	4時間
第6回	**『耳なし芳一のはなし』の作品世界を読み解く** 『耳なし芳一のはなし』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『耳なし芳一のはなし』を読み返しておく。	4時間
第7回	**映画『耳なし芳一のはなし』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品『耳なし芳一のはなし』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、次時に取り上げる『茶碗の中』についてリサーチしておく。	4時間
第8回	**『茶碗の中』の作品世界を読み解く** 『茶碗の中』を通読し、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえつつ、作品世界を読み解いていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、映像作品視聴に備え、『茶碗の中』を読み返しておく。	4時間
第9回	**映画『茶碗の中』により作品世界の理解を深める** 短編の映像作品『茶碗の中』を視聴し、当時の習俗（衣類、食事、家屋など）について視覚的に理解するとともに、前時に捉えた作品世界を読み深めていきます。	本時に配布したプリントに目を通し、『茶碗の中』について再確認する。	4時間
第10回	**報告のための討議と準備作業に取り組む** 各自で報告を担当する作品の分担を行い、次時以降の報告に備えて個別討議とパワーポイントや資料作成の作業に取り組みます。	報告担当者はリハーサルを行い、他の受講者は次時に取り上げる作品に目を通しておく。	4時間
第11回	**個人報告①『おしどり』『むじな』『ろくろ首』の作品読解** 『おしどり』『むじな』『ろくろ首』を通読し、個々の報告を聴きながら、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえて作品世界を読み解いていきます。	報告担当者はリハーサルを行い、他の受講者は次時に取り上げる作品に目を通しておく。	4時間
第12回	**個人報告②『死人が帰って来たはなし』『振袖』『約束』の作品読解** 『死人が帰って来たはなし』『振袖』『約束』を通読し、グループの報告を聴きながら、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえて作品世界を読み解いていきます。	報告担当者はリハーサルを行い、他の受講者は次時に取り上げる作品に目を通しておく。	4時間
第13回	**個人報告③『衝立の乙女』『閻魔の庁にて』『生霊』の作品読解**	これまでの学修を振り返り、ワークシートと作品本文を読み返しておく。	4時間

	『衝立の乙女』『閻魔の庁にて』『生霊』を通読し、グループの報告を聴きながら、物語当時の習俗（衣類、食事、家屋など）を踏まえて作品世界を読み解いていきます。		
第14回	**討議・日本の古典文化（物語）について** 本講座での学修を振り返り、日本の古典文化の特色についてグループ討議に取り組みます。討議内容について、それぞれ10分程度のプレゼンテーションにより全体で共有することになります。	本時に提示されたテーマに基づき、定期試験の準備に取り組む。	4時間

722

授業科目名	**ビジネス敬語**				
担当教員名	田中 哲平				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

就職活動やビジネスシーンにおいて敬語は必要不可欠である。本授業では尊敬語と謙譲語の違いといった基本的な敬語に関する知識を身につけ、特に日本語教育の観点から基礎的な知識を学ぶ。また女房言葉や漢字のような歴史的な言葉の変化についても学び、敬語にとらわれない様々な側面から日本語の面白さを学んでいく。またビジネスシーンの敬語を実践問題を解きながら学ぶだけでなく、上座や下座、お辞儀などといったビジネスシーンにおける基礎的な振る舞いについても身につけていく事を目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	敬語についての深い理解と専門知識	敬語の適切な使い方を理解し、それらを正しく使うことができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	敬語の用例分析力	収集した用例を分析し、説得力のある論理的な資料を作成できる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		収集した用例について、敬語の視点から課題を発見し分析できる。
2. DP7.完遂		分析した内容について、指定の形式に沿った資料を完成させ、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み	30 %	： 授業参加の様子やコメントカードで評定する。
課題	40 %	： 授業内容に基づいたレポート課題を課し、それを採点する
期末レポート	30 %	： 敬語の知識を含め、期末レポートを課し、それを採点する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 西館5F研究室

備考・注意事項： メールでアポイントメントを取り、質問などを受け付ける。
メールには必ず学籍番号と名前、希望する時間帯を必ず入れること。
tanaka-te@g.osaka.seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**丁寧語の始まり** 丁寧語・尊敬語・謙譲語のうち、丁寧語の成り立ち始めについて学び、特に平安時代の言葉遊びから始める	漢字の音読み訓読みについて事前学習を行うこと	4時間
第2回	**女房言葉について** 丁寧語の一種として女房言葉を学び、「お」と「ご」の使い分けを学ぶ	女房言葉について事前学習を行うこと	4時間
第3回	**丁寧語について** 「です」「ます」といった言葉と丁寧語の関係性について学ぶ	丁寧語について事前学習を行うこと	4時間
第4回	**言葉に関する映画視聴** 言葉をテーマにした映画を視聴し、言葉の面白さについて学ぶ	視聴した映画に関するレポートをまとめること	4時間
第5回	**言葉に関する映画視聴と丁寧語のまとめ** 前回視聴した映画をもとに、丁寧語を抽出しその使い方を学ぶ	映画のシーンから丁寧語を抽出しまとめること	4時間
第6回	**尊敬語を学ぶ** 尊敬語を学ぶ3つのステップを明らかにし、システマティックに尊敬語を学ぶ	尊敬語について事前学習を行うこと	4時間
第7回	**特殊な尊敬語について** 通常の尊敬語に加え、特殊な形の尊敬語を学ぶ	特殊な形の尊敬語についてまとめること	4時間
第8回	**謙譲語を学ぶ** 尊敬語と謙譲語の違いを学び、システマティックに謙譲語を学ぶ	謙譲語について事前学習を行うこと	4時間
第9回	**特殊な形の謙譲語を学ぶ** 通常の謙譲語に加え、特殊な形の謙譲語を学ぶ	特殊な形の謙譲語についてまとめること	4時間
第10回	**ら抜き言葉とさ入れ言葉** 誤った敬語であるら抜き言葉とさ入れ言葉について文法的に学ぶ	ら抜き言葉とさ入れ言葉について事前学習を行うこと	4時間
第11回	**ビジネス敬語の実践** テスト形式で実際のビジネス敬語を学んでいく	これまでの敬語についてまとめること	4時間
第12回	**スピーチに関する映画視聴** 吃音に関する映画を視聴し、言葉を発する事の重要性を学び、吃音に関する医学的知識をみにつける	映画に関するレポートをまとめること	4時間
第13回	**ビジネス上の儀礼について** 上座や下座、お辞儀など実際のビジネスマナーについて学ぶ	座席について事前学習を行うこと	4時間
第14回	**手紙の書き方と日本文化** 時候の挨拶や頭語と結語を学び、ビジネスにおける手紙の書き方を学ぶ	時候の挨拶について事前学習を行うこと	4時間

722

授業科目名	**書道**				
担当教員名	高橋 文香				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地方自治体のコミュニティセンターや国際交流協会等で書道講師を経験。日本やハワイの文化交流イベントで書道のワークショップやパフォーマンスを実施。（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

書や文字の歴史に触れながら、毛筆・硬筆の書写技術の習得、表現方法の向上を目指します。書写の基本となる楷書体、正確に速く書く為の行書体、これらに調和する仮名の習得が可能です。目的や必要に応じた効果的な書き方に加え、豊かな文字文化を知ることで書の芸術性を再確認し、思いを伝える書や日常生活に生かす多様な書の表現方法を学びます。必要に応じて課題を出題し個別添削を行い書き癖を修正しながら技能向上を目指します。授業中は問答や意見交換を行い授業の理解度を高めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	書の歴史と書写基本技能・表現力	書や文字の歴史を踏まえ、硬筆・毛筆の基本書写技能習得を目指しながら、思いを伝える多様な書表現を学ぶことができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		思いを伝える書を学ぶことでコミュニケーション力が向上する。また、情報をわかりやすく、多数の人に伝える発信力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
硬筆課題作品提出	25 %	： 第6回に、第1回～第5回の硬筆授業を踏まえた硬筆課題作品を提出。授業の理解度及び、字形、筆脈、全体のバランス等の観点で評価する。
定期試験（毛筆課題作品提出）	25 %	： 第7回～第14回毛筆授業を踏まえた毛筆課題作品と自由創作作品を提出。課題作品は授業の理解度を評価し、自由創作作品は、授業で学んだ知識を利用し、豊かな表現ができているかという観点で評価する。
授業態度	30 %	： 授業や課題作品制作への集中度や、授業中の受け答えや取り組み姿勢の積極性及び理解度を評価する。
宿題提出	20 %	： 授業内容の理解度と取り組みの集中度の観点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『唐拓　九成宮醴泉銘』（昭和52年　清雅堂）
・『王羲之　蘭亭序　張金界奴本』（昭和57年　清雅堂）
・『世界の文字の物語』（平成28年　大阪府立弥生博物館特別展図録）
・『角川書道字典』（昭和52年　伏見冲敬著　角川書店）
・『中国法書選シリーズ』（昭和63年　二玄社）
・『書の古典と理論』（平成25年　光村図書）
その他の参考文献については開講時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
＜持ち物＞
硬筆授業：黒のボールペン、２Ｂ鉛筆、消しゴム等
毛筆授業：筆・墨・硯・半紙・下敷き・文鎮など書写用具（今まで使用の品でよい）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス―書とは―** 書く事の意味、文字や書の歴史、授業目標と計画、用具等の説明を行います。	書く事の意味、文字や書の歴史について復習する。	4時間
第2回	**硬筆：整った文字の条件・漢字（楷書体）** 姿勢、ペン（鉛筆）の持ち方、楷書体の特徴を知るとともに、整った文字の条件を学びます。	ペンを用い、名前や大学名等を楷書体で書いて練習する。	4時間
第3回	**硬筆：漢字（楷書体）と仮名の調和** 平仮名・片仮名の成り立ちや特徴を学びます。 漢字（楷書体）と調和する仮名を学びます。	ペンを用い、漢字・平仮名混じりの文を楷書体で書いて練習する。	4時間
第4回	**硬筆：漢字（行書体）をペンで書く** 漢字（行書体）の特徴を学びます。 ペンを用いた書き方を学びます。 葉書の書き方を練習します。	ペンを用い、名前や大学名等を行書体で書いて練習する。	4時間
第5回	**硬筆：漢字（行書体）と調和する仮名** 漢字（行書体）と調和する仮名の特徴を学びます。 手紙の書き方を練習します。	ペンを用い、漢字・平仮名混じりの文を行書体で書いて練習する。	4時間
第6回	**硬筆授業の要点整理と作品制作（課題提出）** 第１回～第５回の硬筆授業内容の要点を整理し、課題を完成させ提出します。	硬筆授業の要点を整理し、総復習する。	4時間
第7回	**毛筆：用筆法** 姿勢、筆の持ち方、使い方の基本を学びます。 基本の点画を練習します。	大筆を用い、基本の用筆法・点画を練習する。	4時間
第8回	**毛筆：漢字（楷書体）を書く** 大筆を用い、漢字（楷書体）及び、調和する仮名の特徴を学びます。 古典『九成宮醴泉銘』から楷書の用筆法を再確認します。	大筆を用い、名前を漢字（楷書体）と調和する仮名で練習する。	4時間
第9回	**毛筆：漢字（行書体）を書く** 大筆を用い、漢字（行書体）及び、調和する仮名の特徴を学びます。 古典『蘭亭序』から行書の用筆法を再確認します。	大筆を用い、名前を漢字（行書体）と調和する仮名で練習する。	4時間
第10回	**毛筆：小筆を生活に生かす** 小筆の使い方を学びます。 小筆で名前や大学名等を練習し、のし紙やのし袋の書き方を学びます。 小筆、ペン、鉛筆を用い、硬筆の書き方は毛筆と一体のものであることを学びます。	小筆、ペン、鉛筆を用い、課題の言葉を練習する。	4時間
第11回	**毛筆：文字の歩みを体験する** 古典作品の鑑賞ポイントや臨書を学びます。 書の歴史の流れを、実際に大筆や小筆で書く事で確かめます。 古い書体である篆書体、隷書体の書き方を学びます。	来年の干支を様々な書体で書く。	4時間
第12回	**毛筆：思いを込めて書く** 八つ切の紙（縦長の紙）に大きめの文字を書くことにより、思いを込めて書く表現を学びます。	次回の特大筆で書く文字を選び、半紙に大きく練習する。	4時間
第13回	**毛筆：特大筆で書く** 特大筆で特大紙に大字を書き、体全体で表現することの大切さを学びます。	創作作品として書きたい言葉を探す。	4時間

第14回	**毛筆：創作作品づくり** 書道字典や古典作品等を参考にしながら、色々な表現方法を学び、創作作品制作の手がかりをつかみます。 第7回～第13回の毛筆授業を踏まえ、自分の書きたい言葉を選び、自分のイメージに合わせた創作作品の練習をします。	自由創作作品の練習と毛筆授業の総復習をする。	4時間

722

授業科目名	**放送メディアコミュニケーション**				
担当教員名	**對馬 京子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ラジオ番組、式典、イベント司会、ナレーション、タレント養成所や専門学校での講師。現在も、レギュラーラジオ番組を継続中です。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

腹式呼吸での発声練習を基本に挨拶等をマスターします。1週間の印象に残った出来事をテーマにフリートークをする事により、話すことに慣れていきます。日々の生活を注意深く観察できるようにします。更に、映像、楽曲、雑誌、ニュース等、様々な素材を通して、第三者に内容を伝えるにはどの様に話せば良いのか、その工夫を考えていきます。話す事は、大切なコミュニケーションツールであり、自信がつく自己PR力も、実践していきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	第三者に何かを伝える際の注意点を学び、言葉の選び方や文章の構成を学びます	自分自身が感じた日常の喜怒哀楽を相手にも同じ様に伝える事ができる
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		相手に興味を持ってもらうために話を構成する事ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業態度	30 %	： 各回授業への積極的な参加や受講マナーを総合的に評価します
課題発表	20 %	： 授業で出した課題発表での注意点や課題の意図を理解しているか等を評価します
レポート提出	20 %	： 発表に連動して必ず原稿を準備して頂きます。文章をチェックする事で理解している点、理解していない点をより明確に評価します
定期試験（作品発表）	30 %	： 制作した作品の提出、発表で評価します

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： レポート提出や授業参加（出席）が滞りがちな学生には、その都度、声かけします。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業のねらい・挨拶の仕方を解説** 腹式呼吸での発声方法、挨拶の仕方を練習します。授業の進め方や成績評価などを説明します。自己分析を兼ねた自己PRも練習します。	腹式呼吸をマスターする	4時間
第2回	**滑舌** 文章を使い、正しい滑舌、正しい発声方法を学びます。	滑舌プリントを復習する	4時間
第3回	**レポート提出と発表** 文章力のチェックも兼ねてレポートを提出し、文章の構成の仕方を学びます。	出来上がった原稿を音読する練習をする	4時間
第4回	**伝える** 原稿を読みながら、表現方法のイントネーション（抑揚）、トーン・タッチを実践します	文章全体から、要点を書き出し読む練習をする	4時間
第5回	**放送に適した言葉遣い** 放送に適した言葉や様々なシーンで使う敬語・表現を学びます	興味のある事柄を原稿にまとめる	4時間
第6回	**リポート提出と発表** 文章力のチェックも兼ねて、これまで学んだ事柄が活かせているかを復習します	原稿を元に腹式呼吸、滑舌の練習をする	4時間
第7回	**放送局のしくみ** 放送局の仕組みを知り、どの様な部署や仕事内容なのかを学びます	実際に、ラジオ番組を聴いて、パーソナリティや番組の特徴を知る	4時間
第8回	**ラジオ番組構成** ラジオ番組の進行表を作成してみます。時間配分や、コーナーも考えていきます。	ラジオ番組のトークを注意して聴いてみる	4時間
第9回	**ラジオ番組進行表作成（オープニングとエンディング）** 番組の始まりと終わりのトーク内容を考え、原稿にまとめます	ラジオ番組のオープニング、エンディングトークを練習する	4時間
第10回	**ラジオ番組進行表作成（曲紹介）** 番組で紹介する曲を選び、その曲の説明や曲に関連するエピソードを原稿にまとめ、実践してみます	選曲した曲をよく聴き、その曲の歌詞を読む	4時間
第11回	**ラジオ番組進行表作成（原稿作成）** それぞれが、ラジオリスナーに知ってほしい話題を原稿にまとめます	リスナーに興味を持ってもらえる番組作りを考える	4時間
第12回	**ラジオ番組進行表作成（問題点の確認）** ラジオ番組進行表作成でわからない点、不明な点を確認します。	構成した番組を自分で話す練習をする	4時間
第13回	**決められた枠内での企画構成 ラジオ番組の録音** 起承転結と流れを考えて構成していきます。	企画構成、ラジオ番組の録音準備	4時間
第14回	**ラジオ番組制作完成** 構成した内容の要点をまとめ、客観的に各自の番組を聴いてみます。	完成したラジオ番組の改善点を考える	4時間

722

授業科目名	**グローバルコミュニケーション演習**				
担当教員名	田中 哲平				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちの生活において心理学は切っても切り離せない学問である。心理学が科学であるためには、実験を通じてデータを取得することが必要不可欠である。本授業では心理学、特に知覚や記憶などのテーマを中心にした実験データの取得方法を学び、実験を通じてデータ取得の重要性を学習する。パソコンによって制御された実験を行うだけではなく、実験器具や実験刺激を実際に作成したり、心理学実験を体験したりすることによって理解を深めていく。また研究遂行において必須である研究倫理について詳しく学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	実験心理学に関する専門的な知識を身に付ける。	講義内で扱う内容を体験し，理解を深める。

汎用的な力		
1. DP4.課題発見		実験心理学の手法を理解し，実験体験や実験器具作成などを行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況	28 %	： 授業内容に関する質問，コメント，感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。（2点×14回=28点）
小レポート	32 %	： 講義の前半で学んだ知識を正しく理解し，表現できているかについて評価する。
期末レポート	40 %	： 講義で学んだ知識を正しく理解し，表現できているかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所： 西館5F研究室

備考・注意事項： メールでアポイントメントを取り、質問などを受け付ける。
メールには必ず学籍番号と名前、希望する時間帯を必ず入れること。
tanaka-te@g.osaka.seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**実験心理学とはなにか** 心理学実験の基礎を学び、授業の目的や評価方法について伝えます。また研究遂行において必須である研究倫理について詳しく学びます	心理学についてのイメージをまとめてきてください	4時間
第2回	**ストループ効果** 人間の知覚と抑制について、心理学実験を通じて学びます	ストループ効果について事前学習を行ってください	4時間
第3回	**短期記憶の仕組み** 短期記憶について、基本的な知識を学び、簡単な記憶実験を行います	短期記憶について事前学習を行ってください	4時間
第4回	**虚記憶の仕組み** 短期記憶の中でも虚記憶について学び、簡単な記憶実験を体験します	指示された課題を行ってください	4時間
第5回	**長期記憶の仕組み** 長期記憶について、基本的な知識を学びます	長期記憶について事前学習を行ってください	4時間
第6回	**技能の転移** 技能の記憶や技能学習の転移について、基本的な知識を学びます	技能記憶について事前学習を行ってください	4時間
第7回	**両側性転移の実験** 両側性転移の実験器具を実際に作成し、鏡映像描写の実験を体験します	両側性転移について事前学習を行ってください	4時間
第8回	**両側性転移の実験まとめ** 両側性転移の実験をデータにまとめ、レポートにまとめます	両側性転移の実験をレポートにまとめること	4時間
第9回	**知覚と錯視** 人間の目の仕組みを学び、様々な錯視を体験します	目の仕組みや錯覚について事前学習を行ってください	4時間
第10回	**さかさめがねの実験** さかさめがねと呼ばれる実験を実際に体験し、その手法と不思議さを学びます	さかさめがねの仕組みについて事前学習を行ってください	4時間
第11回	**さかさめがねの実験まとめ** さかさめがねに関する論文を講読し、経験した実験との相違をレポートにまとめます	さかさめがねに関する論文を事前に読みレポートにまとめること	4時間
第12回	**心理学測定法とは** 行動に現れにくい心を測定する時にどのような手法を用いるのかを学びます	精神物理学的測定法について事前学習を行ってください	4時間
第13回	**味覚変容実験** 人間の味覚の変容に関する実験を実際に体験し、データにまとめます	味覚変容について事前学習を行ってください	4時間
第14回	**味覚変容実験まとめ** 味覚変容実験のデータから何が言えるのか、レポートにまとめます	両側性転移の実験をレポートにまとめること	4時間

722

授業科目名	**卒業研究**				
担当教員名	**浅野 法子・白瀬 浩司**				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、2年間の学びの集大成として、卒業論文の制作に取り組みます。まずは、学術的な問いから自分の興味・関心に基づいたテーマを決定します。その後、大阪や日本、海外の歴史や風土、自然、文化、文学文芸等をキーワードに、個人で課題を探して調査を進めます。日本文化の探求を深め、異文化の視点から欧米文化と比較した日本文化を「発見」することを試みます。

演習形式で授業を進め、グループの課題と個人の課題を見つけて発表に取り組みます。最終課題は、調査結果を卒業研究として文章にまとめます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	大阪を事例とした文化研究。	周辺文化を客観的に分析できる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		文学作品や周辺文化をクリティカルに分析できる。
2. DP7.完遂		自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	10 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、全学ルーブリックに基づいて評価します。
試験（論文）	30 %	： 内容の妥当性と論理的構成について、全学ルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ・小課題）	42 %	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、3ポイント。
提出物（小課題）	18 %	： ３回の小課題の提出を課します。内容に対する評価とともに、授業に積極的に参加して課題に取り組む態度も加味して評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じ、授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　浅野：水曜3限、白瀬：水曜4限

場所：　研究室（西館5階）

備考・注意事項：　その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレスは第１回目の授業で提示する）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス—授業の進め方、課題、評価について—** 前期の関連講座において各自が選定した研究テーマについて、全体の構成や作業の手順、完成までの見通し（執筆計画）などをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。次回の課題プリントを通読する。	4時間
第2回	**研究テーマの検討** 前時に提出したワークシートに基づき、一人ひとりテーマに関するショートプレゼンを実施する。受講者および講座担当者の意見を聴き取りながら、テーマの妥当性および論としての成立が可能かどうかについて検討を行う。	振り返りシートの作成。次回の課題プリントを通読する。	4時間
第3回	**資料収集とリスト作成** 資料収集とリストの作成を行う。 ・検索サイトを用いて、各自のテーマの先行研究を収集する。 ・文献の注記の仕方にしたがい、ワークシートに先行研究リストをまとめる。	振り返りシートの作成。資料を収集する。	4時間
第4回	**文献調査と研究テーマの再検討／論文の書き方を学ぶ①三部構成について** 序論、本論、結論といった三部構成を学ぶ。 ・持参した複数の文献を読み、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。 ・自身の選定した研究テーマが学術的な問いとなっているか、チェック項目にしたがいつつ再検討する。 ・テーマが確定したところで、第一章の執筆に取り組む。	第一章草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第5回	**先行研究の読み進めと、研究ノート作成／論文の書き方を学ぶ②引用と注記の仕方** 第一章は全編が完成した後に変更の必要が生じるが、現時点で朱筆チェックされた第一章草稿の返却と担当者からのアドバイスを受ける。 ・引用文献の処理について学ぶ。 　書籍、雑誌、インターネットの情報の処理方法、短文の場合と長文の場合など。 ・文献の読み進めを継続し、研究ノート（ワークシート使用）にまとめる。 ・卒論で使用する主要先行文献を絞り込む。	資料を収集するとともに、主要文献の絞り込みを進める。	4時間
第6回	**資料（先行研究）の読み込みと第二章第一節の執筆** ・研究ノート（ワークシート使用）にメモを取りながら資料を読み進める。 ・資料を読み終えたところで、追加資料の要否について検討する。 ・第二章第一節の草稿執筆に取り組む。	第二章第一節の草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第7回	**草稿（第二章第一節）に対する個別指導と第二章第二節の執筆** ・朱筆チェックした第二章第一節の草稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・第二章第二節の執筆方針を報告し、草稿の執筆に取り組む。	第二章第二節の草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第8回	**草稿（第二章第二節）に対する個別指導と第二章第三節の執筆** ・朱筆チェックした第二章第二節の草稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・第二章第三節の執筆方針を報告し、草稿執筆に取り組む。	第二章第三節の草稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第9回	**草稿（第二章第三節）に対する個別指導と中間発表準備** この時点で各自の研究の全容が見えてくるので、研究の妥当性や過不足のある点などについて担当者のアドバイスを得つつ再検討することになる。 ・朱筆チェックした第二章第三節の草稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・論点の追加や視点の切り替えなど、担当者のアドバイスを得た上で中間発表のスライド作成に取り組む。	中間発表のスライドを作成し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第10回	**中間発表** ・自分のテーマについて中間発表を行う。 ・他の受講生の発表を聞き、それぞれの良かった部分について検証する。	振り返りシートの作成。発表時の指摘等を踏まえ、第二章の加筆・修正を行う。	4時間

第11回	**第二章（第一節～第三節）の加筆・修正作業** 前時の発表の際に得た質問や指摘、および自身の気づいた不十分点や新たな視点などを踏まえ、担当者に相談しつつ第二章の加筆・修正作業に取り組む。	第二章（第一節～第三節）の執筆を進める。	4時間
第12回	**第二章（第一節～第三節）の完成稿の執筆** 前時および課外での加筆・修正作業を受け、第二章の完成稿の執筆に取り組む。 ・時間内に仕上がった場合は、担当者の朱筆チェックとアドバイスを受ける。	第二章の完成稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第13回	**第三章の執筆と第一章の改稿** 朱筆チェックした第二章の完成稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 第三章執筆の後、第二章以降の論展開に沿うように第一章の改稿を行う。 ・第三章の執筆に取り組む。 ・第一章の加筆・修正に取り組む。	第三章および第一章の完成稿を執筆し、期日までにclassroomより提出する。	4時間
第14回	**卒論要約の執筆** 朱筆チェックした第三章および第一章の完成稿を返却するとともに、担当者による個別指導を実施する。 ・要約執筆＝卒論の内容について規定字数で簡潔にまとめる。 ・卒論の提出書式の再確認を行う。	卒論要約を期日までにclassroomより提出する。卒論書式に従い、卒論の清書を期日に提出する。	4時間

722

授業科目名	**舞台表現演習**				
担当教員名	美月 亜優				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV,ラジオでの出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

2年間のまとめ。舞台パフォーマンスで培った基本をベースに、もっともっと芝居を掘り下げていきます。覚えこみ、成りきる作業をして、本格的に演じる作業をしていきます。芝居は現実とは違うので、キャラクターを演じるということは、自分自身と異なるものを作り上げていくので、不自然な動きや所作になることもあり、そうなると違和感を感じます。役作りをしていく上で、キャラクター特有の所作、動作、仕草などを、事細かく考え、計算し、感情も流れるように繋げて動かなくてはなりません。そして自分と一体化させます。いかに自然に動けるかが、上手く演じるうえでは大事なことなのです。細かく作り込むことで、様々な感情についても、あらゆる人間性についても学んでいくので、人間そのものを考えることになります。そして魅力的な人間に、成長していける糧になればと思っています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	歌、ダンス、芝居	五感の向上と、自覚を持ち進むことができる。 五感の向上と自覚。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		自分自身のキャラクターについて考えることができる。
2. DP9.役割理解・連携行動		相手を思いやりながら、芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	50 %	： 毎回の課題をどれだけ理解し、演じようとしているか。
授業態度	30 %	： 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く見学しているか。積極的に参加しているか。
試験（発表）	20 %	： どれだけ読解力をもって挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本読み：読み合わせ** 自分の役について考え台詞を覚える作業をする。	それぞれの役について掘り下げ考える。台詞回しの反復練習をする。	4時間
第2回	**立ち稽古：すべてのキャラクターについて把握する** 場面ごとに立ち振る舞いを決めていく。	台詞回しの反復練習をし、体に叩き込む。自分の役をもっともっと掘り下げる。	4時間
第3回	**立ち稽古：自分と関わるキャラクターとの距離感を考える** 相手との距離感を測り、相手が絡みやすい方法で自分の立ち振る舞いを考える。	台詞回しの反復練習をし、よりキャラクターが鮮明に演じられるように考える	4時間
第4回	**立ち稽古：より細かく動作をきめていく** とにかく不自然さの動作がなくなるようにチェックしていく。同時に役を掘り下げる。	台詞の反復練習をする。	4時間
第5回	**荒通し稽古、抜き稽古** 一度無理矢理芝居を最初から最後まで通してみる。 大まかな動きを把握する。気になる場面をピンポイントで抜き稽古をする。	台詞立ち振る舞いの反復練習をする。	4時間
第6回	**抜き稽古：動きと感情繋ぎをチェックする** 自然な動き、自然な感情表現出来るよう事細かにチェックしていく。	台詞立ち振る舞いの反復練習。役作りをもっと掘り下げる。	4時間
第7回	**ショー振り付け** 歌いながら、踊る振り付けをする。	歌を覚える。振りを覚える。	4時間
第8回	**振り付け：続きとクリーンアップ** 手の先から顔の方向、表情に至るまで事細かにチェックして、みんなで揃えていく。体全体で表現する。	クリーンアップしたところを思い出し、歌、ダンスの練習をする。	4時間
第9回	**振り付け：続きとクリーンアップと歌稽古** 歌とダンスの反復練習。揃える作業を何度も繰り返し、体と頭に叩き込む。	歌とダンスの反復練習。芝居も思い出す。	4時間
第10回	**芝居とショー通し** 荒々通し。の前に思い出し稽古。そして本番のように通す。その後ダメ出し。	ダメ出しされたところを思い出し反復練習。	4時間
第11回	**荒通し** 本番と同じように通す。その後ダメ出し。抜き稽古。	ダメ出しされたところを思い出し反復練習。	4時間
第12回	**本通し** 本番と同じように通す。本番一発に集中し、すべて出し切り成功させる。その後反省会。	自分自身に問いただし、本番の出来を自分で評価する。	4時間
第13回	**反省会と講習会** 舞台に　携わる上での講習会。所作、着付け、メイク等を体験してもらい、舞台スキルをアップします。	反復練習。	4時間
第14回	**まとめ：2年間を振り返る。** 課題演目を演じてもらいます。	授業内容を振り返る。これからの社会生活において、積極性があり、心優しく心豊かで、素敵な笑顔で、みんなに愛される人生を、歩んでいって欲しいです。	4時間

722

授業科目名	**舞台パフォーマンスⅢ**				
担当教員名	**美月 亜優**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団。数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV、ラジオ多数出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常において、自分がどう見られているのか、そして、自分はどう見せたいのかを一度立ち止まって考え、客観視をする。もう一人の自分が自分自身を見つめ、自分の行動、言動にきちんと責任を持って進んで行く。あらゆる角度から色々なもの、自分自身を見ることが出来ると視野がどんどん広がり、色々なものが見え、色々な感情が湧いてきて、言葉で伝えたくなります。舞台パフォーマンスで培った基本をベースにお芝居を通し、感情豊かで心の広い人間性へと成長出来るお手伝いが出来ればと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	歌、ダンス、芝居	五感の向上と自覚持ち進むことが出来る。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		自分自身のキャラクターについて考えることができる。
2. DP9.役割理解・連携行動		相手を思いやり、距離感を測りながら芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	50 %	： 毎回の課題をどれだけ理解し、演じようとしているか。
授業態度	30 %	： 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く見学しているか。積極的に参加しているか。
試験(発表)	20 %	： どれだけ読解力をもって挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると４時間の授業外学習が求められる。授業外学習に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**発声、歌稽古、大芝居：キャラクターについて考える。** 時代考証、キャラクターについて考える。	それぞれのキャラクターに合った台詞回しの反復練習をする。	4時間
第２回	**発声、歌稽古、大芝居：大きく演じる** 衣装や大舞台で演じることを想定したり、観客に伝わる演じ方について考える。	台詞回しの反復練習をし、体に叩き込む。	4時間
第３回	**発声、歌稽古、大芝居：見せ方** 大舞台で伝える演じ方について考える。キャラクターを大きく演じる。	台詞の反復練習をし、楽しむ。	4時間
第４回	**発声、歌稽古、ダンス：リズムを感じる** 体全体を使ってダンスをする。リズムを感じる。	振りの反復練習をする。	4時間
第５回	**発声、歌稽古、ダンス：身体で覚える** 振りを体で覚え、音楽を感じながら踊る。	振りの反復練習をし、感情も同時に作り上げていく。	4時間
第６回	**発声、歌稽古、ダンス：感情をのせて踊ることを考える。** 音楽にのせて、感情表現しながら踊る。	心も体も開放し、振りの中に感情移入しながら踊る。次の課題に目を通す。	4時間
第７回	**発声、歌稽古、大芝居：キャラクターの立ち振る舞いについて考える** 大芝居の型について学ぶ。舞台考証や、それぞれのキャラクターの所作、立ち振る舞いについて考える。	所作と台詞回しの反復練習をする。感情移入をする。	4時間
第８回	**発声、歌稽古、大芝居：所作を大きく振る舞うことを学ぶ** 歩き方、挨拶の仕方等、所作を大きく優雅に振る舞うことに、少しずつ慣れる。動作も台詞も大きく演じる。	所作と台詞回しの反復練習をする。観客側のことも考えながら作りこむ。	4時間
第９回	**発声、歌稽古、大芝居：大胆に演じることを学ぶ** 様々な役を演じ分ける。思い切り演じる。役に成り切って唄う。	所作と台詞回しの反復練習をする。感情、動作も一体化させ作りこむ。	4時間
第10回	**発声、歌稽古、大芝居：表現について考える** 大きく芝居をする。表現を大きくし、動作も大きくし、流れるように、歌うように、優雅に演じ切る。	演じる相手のことも考え演じる。次回の課題に目を通す。	4時間
第11回	**発声、歌稽古、コミカル芝居：キャラクターについて考える** 様々なキャラクターについて考える。演じる。	登場人物のキャラクターを作り上げる。台詞の反復練習をする。	4時間
第12回	**発声、歌稽古、コミカル芝居：印象深くする演技について考える** 様々なキャラクターを色濃く演じ、印象を残せるように考える。	相手の反応を考え作りこむ。台詞の反復練習をする。	4時間
第13回	**発声、歌稽古、コミカル芝居：スムーズに演じる** 相手とのやり取りが、スムーズにいくように、テンポ良く思い切り演じる。演じる。	観ている人の反応も考え作りこむ。次の課題に目を通す	4時間
第14回	**まとめ：舞台表現、感情表現、キャラクター表現について考える** 台詞の課題を感情、キャラクターを考え演じ切る。心と体と感情を一体化して演じる。	授業内容を振り返る。将来の社会生活においても、思い切りが良く、心豊かで優しく、どんな時でも楽しめる人間になっていって欲しいです。	4時間

722

授業科目名	キャリアディベロップメント				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、１回生でのキャリア教育の学びと学科の学びを融合させ、2回生後期の卒業研究へとつなぐために自分の興味関心に基づく研究テーマ設定の方法や研究計画の作成等を学修する。
前半は、1回生の学びを研究テーマ設定という視点で振り返る。後半は、2回生の卒業研究に向けて大阪市内でのフィールドワークを想定したプレ研究テーマの設定と実地調査の企画実施を行う。
なお、毎回の授業は基本的には「講義→個人作業またはグループワーク→全体交流→自学による事後課題」で構成される。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	卒業研究に向け、研究分野に関する知識や技能を学ぶ	課題発見の視点や研究テーマ設定につなげる考え方や方法について理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	大阪市内の特定地域において研究テーマを設定、研究計画を作成し実地調査を行う	プレ研究テーマに基づいた実践を通して卒業研究テーマの設定につなげる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		自分の興味関心を研究テーマとして扱うための課題設定のあり方を理解する。
2. DP5.計画・立案力		研究テーマに基づく実際の研究を行うための計画や立案のあり方を学ぶ。
3. DP7.完遂		大阪市内での実地調査において企画立案した計画に基づき個人調査を実施する。
4. DP10.忠恕の心		他の学生の研究に関して興味を持ち、必要に応じて感想や意見を伝えるながら互いの研究の内容の充実に努める。

学外連携学修

有り(連携先：大阪市中央区（予定）でのフィールドワーク)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加態度	40 %	： 講義に対する理解、グループ協議での参画意識や、テーマ設定・研究計画の作成状況等を観察し、評価する。
授業内課題		： 個別または他者とともに取り組んだ創意工夫の過程をワークシート等を通して評価する。

30　%

成果発表　：　発表内容について他者評価を重視して評価する。

15　%

試験（レポート）　：　卒業研究に向けたテーマ設定およびその研究の意義についてレポートにまとめる。

15　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

創元社「大阪の教科書」（個人に貸与します）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。大阪市中央区のフィールドワークの際には、交通費が必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　西館5階研究室

備考・注意事項：　研究テーマの設定および研究計画の作成については学科の他の先生方の協力を得ることも必要なことから、そのつど必ず先方の予定を確認し、質問事項に関する資料をあらかじめ作成して相談すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス　シラバス説明、卒業研究テーマの仮設定** ・本授業の概要及び進め方について学ぶ。 ・卒業研究テーマを仮に設定し同じ領域のグループで交流する。	卒業研究仮テーマ設定の理由や研究を進めるにあたっての疑問点や課題をまとめてみる	4時間
第2回	**大阪の歴史と文化** ・参考文献を用いた大阪の歴史と文化に関する講義。 ・研究するに足るテーマの設定のあり方の学修。 ・上記２点を踏まえて「大阪の歴史と文化」に関する研究テーマを設定し、研究の意義についてまとめる。	「大阪の歴史と文化」に関する調査とテーマの設定	4時間
第3回	**大阪の文学** ・前回学修課題の発表と他者評価。 ・参考文献を用いた大阪の文学に関する講義。 ・研究テーマ設定から研究計画作成までの流れに関する学修。 ・講義と学修を踏まえて「大阪の文学」に関する研究テーマを設定し、研究の意義についてまとめる。	「大阪の文学」に関する調査とテーマの設定	4時間
第4回	**異文化理解** ・前回学修課題の発表と他者評価。 ・異文化理解の重要性に関する講義。 ・講義を踏まえて「異文化理解」に関する研究テーマを設定し、研究の意義についてまとめる。	「異文化理解」に関する調査とテーマの設定	4時間
第5回	**インバウンドと英語力** ・前回学修課題の発表と他者評価。 ・インバウンドと英語力に関する講義。 ・講義を踏まえて「インバウンド」に関する研究テーマを設定し、研究の意義についてまとめる。	「インバウンド」に関する調査とテーマの設定	4時間
第6回	**大阪市内FW　テーマ設定** ・前回学修課題の発表と他者評価。 ・第２～５回の学修内容に基づく「指定された範囲（大阪市内）」での自分の興味関心をいかしたテーマの設定（次回授業までに提出） ・実地調査にむけた条件の把握	大阪市内FW　テーマ決定および担当教員の承認	4時間
第7回	**大阪市内FW　実地調査前研究の内容検討** ・テーマに関する学科教員による評価の提示。 ・テーマ承認（担当教員通知）→実地調査前研究の内容に関するワークシート作成 ・テーマ不承認→テーマの再考に向けた調査と構想 ＊次の授業までに全員がプレテーマの承認を得ること	ワークシート作成および担当教員への相談	4時間
第8回	**大阪市内FW　実地調査行程表の完成・実地調査ガイダンス** ・実地調査前研究に関するワークシート作成及び承認→実地調査行程表の作成 ・実地調査当日のチェックおよび緊急時の対応に関する確認	実地調査事前研究（行程表未承認者は担当教員からの承認を受ける）	4時間
第9回	**大阪市内FW　実地調査** ・事前に承認された行程表に基づいた調査の実施	実地調査で得た資料の整理	4時間
第10回	**大阪市内FW　実地調査のまとめ**	発表準備	4時間

	・実地調査前研究および実地調査に関する内容のまとめ ・発表準備		
第11回	**大阪市内FW　研究発表** ・研究発表と意見交流と他者評価 ・大阪市内FWに関する教員からの評価	卒業研究に向けたテーマ構想	4時間
第12回	**卒業研究　ガイダンス・テーマ構想** ・卒業研究の意義 ・卒業研究に向けた準備 ・卒業研究のテーマ設定のあり方	第１～１２回の学修内容を踏まえた卒業研究テーマの設定（次回授業までに提出）	4時間
第13回	**卒業研究　骨子案作成及び発表準備** ・卒業研究の内容を整理するためのワークシート（骨子案）作成 ・骨子案の発表準備	骨子案の発表準備	4時間
第14回	**卒業研究骨子案　発表** ・卒業研究骨子案発表と意見交流と他者評価 ・担当教員からの評価	卒業研究に向けた資料収集	4時間

722

授業科目名	**オーディオドラマ演習**				
担当教員名	**葛城 七穂**				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。 専門学校・声優養成所の講師を担当。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

オーディオドラマを実際に作成する過程の中で、声に特化した表現力を身につけます。
スタジオでの収録を通し、客観的に自分の表現を知る事にもなります。
作品の向こう側にいる聞き手を意識し、聞き手を楽しませる作品作りを目指します。その為には自分達も楽しんで取り組む事も必要です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	オーディオドラマ作成	作品を創る為に必要な、適切な表現方法を選択できる。

汎用的な力	
1. DP6.行動・実践	他者へ向けての表現力がより豊かになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題の実演	40 %	： 課題に対し、どれだけ積極的に取り組めているか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30 %	： 授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組めているか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30 %	： 授業で学んだ事をどれだけ理解し、身についているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション<マイク前のパフォーマンスとは>** **小作品　本読み** 授業の進め方の説明。 滑舌、発声の練習。 マイク前での注意点。 本読みにより、作品の全体像を把握する。	滑舌、発声をきちんと練習する。テキストを読み込む。	2時間
第2回	**小作品　感情** キャラクターの感情を分析、喜怒哀楽を豊かに表現する。	一文の中にも様々な感情が織り交ざる。細かく分析し、オリジナルな表現を見つける。	2時間
第3回	**小作品　距離感** 物理的な距離感の表現、そして作品の世界観を表す声のトーンを探る。	声のボリューム、声色に意識を向ける。	2時間
第4回	**小作品　体感** 最終的に音声のみで表現するものではあるが、実際身体を動かしながら演じて体感してみる。	身体ごと演じてみることにより、より表現の幅の可能性が膨らむことを実感する。	2時間
第5回	**小作品　１回目収録** 小作品を実際に収録してみる。	収録にあたり、自分の可能性を最大限引き出す努力をする。	2時間
第6回	**小作品　２回目収録** 小作品を全て収録する。	１回目の収録を踏まえ、更に高みを目指せる準備をする。	2時間
第7回	**小作品　鑑賞　　脚本　本読み** 収録した小作品を鑑賞。 客観的に自分の声、演技を判断する。 新たな作品の世界観をしっかりと捉える。	客観的に受け止めた自身の声、演技を、更にどう伸ばすべきか考察する。新たな作品を読み込む。	2時間
第8回	**脚本　感情** 分析した感情を的確に表現する方法を探る。	表現の可能性は無限にあり、その為の細かい分析をしていく。	2時間
第9回	**脚本　背景** 作品の背景を考察する。 作品を俯瞰で観る目を養う。	近づいた視点から、引いた視点への変換。新たな視点を見つけてみる。	2時間
第10回	**脚本　キャラクター** 作品内でのキャラクターの色付けをはっきりさせる。	キャラクター表現の可能性を探る。敢えてオーバーな表現にも挑戦する。	2時間
第11回	**脚本　共有** 作品は一人で創るのではなく、その作品に関わる仲間と一緒に創りあげる。 その仲間と空気感を共有し、更に大きな表現となるものを目指す。	一緒に作る仲間とどれだけ想いを共有できるか。共同作業に取り組む。	2時間
第12回	**脚本　1回目収録(前半グループ)** ここまでしてきた作品作りをマイクにのせ、収録に挑む。	収録に向けて、更にパフォーマンスを向上させる努力をする。	2時間
第13回	**脚本　2回目収録(後半グループ)** ここまでしてきた作品作りをマイクにのせ、収録に挑む。	収録に向けて、更にパフォーマンスを向上させる努力をする。	2時間
第14回	**脚本　３回目収録** 録り残し、リテイク等の収録。 ブースに入らず、サブで聞く側になる事で、客観的に自己を分析し、己の魅力や、必要なものを見つけていく。	己を知る事の大切さに気付こう。自分にきちんと興味を持ち、自分の周りの様々なものにも興味を持とう。	2時間

722

授業科目名	**英語スピーキング　アドバンス**				
担当教員名	**工藤 律子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュケーションで必要な英語の指導を２０年行ってきました。また、カリキュラム作成や１２年間一貫教育の内容にも携わってきました。（全１４回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

Communications 5 に引き続き、本科目では、ナショナルジオグラフィックのコンテンツやTED TALK のプレゼンテーションを題材として、実在する人々や場所で交わされる生きた英語に触れながら、日常英会話に必要な聴解力・表現力を伸ばすことを目的とします。各授業では、自然な速度の英語を多く聞き、英語特有のリズムやイントネーションを理解するように努めます。また、題材に用いられている基本語彙や表現、文法項目を学習し、それらを用いて自分の意見を表現できるように、スピーキング練習や英作文を実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力	身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
小テスト	20 %	： 既習事項に関するテストを行います。
小レポート	30 %	： 授業に関する内容や文法に関するレポートを飼います。
グループ発表	20 %	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALKを参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第14回の授業日に行い、評価の20%とします。
期末レポート	30 %	： 第14回の授業後に日英両方のレポートを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	・World English 3 Second Edition	・Cengage Learning	・2015 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、Unit 7（前半） Getting Around** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。	Unit 7 で学習した単語・表現を復習し、第２回から始まる小テストに備えます。Unit 7 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第２回	**Unit 7（後半） The Rickshaws of Kolkata** ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第３回	**Unit 8（前半）Competition** ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。	Unit 8で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第４回	**Unit 8（後半）In Sports, Red is the Winning Color** ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 8 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第５回	**Unit 9（前半）Danger** ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。	Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第６回	**Unit 9（後半）Three Things I Learned While My Plane Crashed** ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7-9 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。	4時間
第７回	**Unit 7-9 Review Quiz、TED TALK** ・Unit7-9までの内容に基づいたReview Quizを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第８回	**Unit 10（前半）Mysteries** ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第９回	**Unit 10（後半）Hands Across Time** ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

第10回	**Unit 11（前半）Learning** ・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。	Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	**Unit 11（後半）Five Dangerous Things (You Should Let Your Children Do)** ・北極でのある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 11で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	**Unit 12（前半）Space** ・人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。	Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	**Unit 12（後半）The Hubble Space Telescope** ・自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 10-12 で学習した単語・表現を復習する。プレゼンテーションの準備をする。	4時間
第14回	**プレゼンテーション** ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。	プレゼンテーションの内容を振り返り、再構成します。	4時間

722

授業科目名	**英語スピーキング　アカデミック**				
担当教員名	**麻畠 徳子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、アカデミックレベルの英会話力を身につけることを目的とします。アカデミックレベルとは、母語で論理的に思考し、自分の意見を論述できるように準備した上で、それを英語で的確に伝え、議論することのできるレベルを指します。各授業では、「今日における賛否両論」をテーマに、事例学習、語彙学習、内容把握課題を通じて、各テーマについて自分が賛成・反対のどちらの立場かを、日本語と英語で論理的に思考していきます。最終的には英語表現の正確さと共に流暢さも意識して英語で議論できるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英会話能力、英語聴解能力	自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。場面に応じた適切な表現を使い分けることができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分の意見を主張し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テスト（語彙・ディクテーション）	20 %	： 毎回、授業の初めに既習単元の小テストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	30 %	： 第7,14回の授業で、既習単元の理解度を確認するReveiw Quizを実施します。その結果の平均を評価の30%とします。
ディベート課題	30 %	： 複数回にわたってディベート課題を課します。主張の的確さ、説得力および課題に取り組む姿勢を基準に、5段階で評価します。発表評価点の平均を評価の30%とします。
定期試験	20 %	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

① 阿部公彦・著、『理想のリスニング』（東京大学出版会）
② 高山芳樹・監修、『リスニング×スピーキングのトレーニング』（Z会）
③ 長尾和夫ほか・著『英語で話す力。』（三修社）
④ 関正夫・著『世界一わかりやすい英語の発音の授業』（中経出版）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、 発音の基本法則** ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・英語を話すうえで気を付けるべき発音の基本法則について学びます。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第２回	**【Society】Do you support gay marriage?** ・「同性婚」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・ディスコースマーカーを使って論理展開する表現を学びます。	第2回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第３回	**【Society】Are you for capital punishment?** ・「死刑」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・追加の表現を学びます。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第４回	**【Society】Are you in favor of euthanasia?** ・「安楽死」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・強調の表現を学びます。	第4回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第５回	**【Value】Should men and women be expected to play the same social roles?** ・「ジェンダーロール」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・比較・対照の表現を学びます。	第５回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第６回	**【Value】Do you think that married people live happier lives than single people?** ・「結婚制度」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・自分の個人的な考えを、論拠に組み込む表現を学びます。	第1～６回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。発表課題の練習をしておきます。	4時間
第７回	**【小括】第1-6 を振り返る、課題発表①** ・これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・Reveiw Quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 ・第1～6回の学習内容を踏まえ、一つの議論を選択し、ディベート課題を実施します。	発表のフィードバックをもらい、次の発表の改善につなげます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第８回	**【Value】Would you prefer to spend your last years in an elderly care facility?** ・「老後」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・必然性の表現を学びます。	第８回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第９回	**【Education】Should English education start from the first year of elementary school?** ・「英語の早期教育」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・意見・感想を述べる表現を学びます。	第９回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

第10回	【Education】Is it better for Japanese to learn native English than to learn global English? ・「グローバル言語」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・例を挙げる表現を学びます。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	【Education】Do Japan need to bring in more internation students? ・「留学生の受け入れ」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・場合・状況に関する表現を学びます。	第11回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	【Jobs】Is a merit system better than s seniority system at work? ・「終身雇用制と能力主義」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・推量に関する表現を学びます。	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	【Job】Should people be forced to retire at a certain age? ・「定年退職・働き方」のテーマについて、賛否の意見を理解し、要点をまとめます。 ・自分の考えをまとめ、その立場をとる根拠を考えます。 ・視点・状況判断に関する表現を学びます。	第8～13回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。発表課題の練習をしておきます。	4時間
第14回	【小括】第7～13回を振り返る ・これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・Reveiw Quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 ・第7～13回の学習内容を踏まえ、一つの議論を選択し、ディベート課題を実施します。	これまで学習してきた内容を復習し、最終試験の対策をしておきます。	4時間

722

授業科目名	**英米の文学**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

明治時代、文明開化により流れ込んできた欧米文化の波が日本の文化に大きな影響を及ぼしました。小説もそのひとつです。夏目漱石をはじめとする明治の文豪たちは、西洋の小説に触れ、それを自分たちの文体に取り込んでいきました。本科目では、日本の小説に影響を与えた西洋の小説のなかでも、他のヨーロッパ諸国に先駆けて近代小説が誕生したといわれる18世紀イギリスに注目し、それがどういう観点で「誕生」といえるのか、またどのような歴史的な過程を経て成立していったのかについて、具体的な小説作品を取り上げながら見ていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	18世紀イギリス小説史に関する知識	18世紀イギリスにおいて近代小説が誕生した歴史的背景を理解し、そうした散文芸術の文化的意義について考察することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		課題図書を読み、各作品が成立した歴史的文脈を理解した上で、現代における文学の衰退について問題点を検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テスト	60 %	： 毎回（第６回、第１０回は除く）の授業のはじめに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それぞれ5点満点とし、１２回全部で評価の６０％とします。
論述型の小レポート	30 %	： 参照不可の論述型の小レポート（第６回、第１０回の授業内に実施）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。それぞれ10点満点とし、2回で評価の３０％とします。
期末レポート	10 %	： 第14回の講義のあと、講義内容の理解に基づいて講義で扱った作品を一つ取り上げ、それについての考察を課し、独自性が見られるかどうかを基準に採点します。期末レポートは評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

① 『ロビンソー・クルーソー（上）（下）』、平井正穂（訳）、岩波文庫（1967）
② 『ガリヴァー旅行記』、平井正穂（訳）、岩波文庫（1980）
③ 『パミラ、あるいは淑徳の報い』、原田範行（訳）、研究社（2011）

④ 『トム・ジョウンズ（一）（二）（三）（四）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1952）
⑤ 『トリストラム・シャンディ（上）（中）（下）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1969）
⑥ 『オトラント城』、千葉康樹（訳）、研究社（2012）
⑦ 『フランケンシュタイン』、小林章夫（訳）、光文社（2010）
⑧ 『ノーザンガー・アビー』、中野康司（訳）、ちくま文庫（2009）
⑨ 『高慢と偏見』、小尾芙佐（訳）、光文社（2011）
⑩ 『ジェイン・エア（上）（下）』、小尾芙佐（訳）、光文社（2006）
⑪ 『嵐が丘（上）（下）』、小野寺健（訳）、光文社（2010）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**はじめに：イギリス近代小説の「誕生」における歴史的文脈** ・授業の進め方、評価方法の確認をします。 ・イギリス近代小説が誕生した歴史的背景を概観します。 ・課題図書を指示します。	『ロビンソン・クルーソー』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 イギリス近代小説が誕生した歴史的背景について、1000字程度でまとめられるように講義内容を整理しておきます。	4時間
第2回	**黎明期①：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー漂流記』（1719）とジャーナリズム** ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説を読みます。 ・デフォーの経歴と作品との関係を学びます。 ・ジャーナリズムと小説の起こりの関連性を学びます。	『ガリヴァー旅行記』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第２回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます	4時間
第3回	**黎明期②：ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』（1726）と植民地支配** ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説をもうひとつ読みます。 ・デフォーのライバル的存在であったスウィフトの経歴とその作品を学びます。 ・小説と現実の関連性を学びます。	『パミラ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第３回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第4回	**勃興期①：サミュエル・リチャードソン『パミラ』（1740）と書簡文化** ・近代小説の父と呼ばれるリチャードソンの経歴と作品について学びます。 ・書簡体小説とは何かを学びます。	『トム・ジョーンズ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第４回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第5回	**勃興期②：ヘンリー・フィールディング『トム・ジョーンズ』（1749）と古典主義** ・リチャードソンのライバル的存在であったフィールディングの経歴と作品について学びます。 ・三人称小説という小説の語りの技法について学びます。	第１～４回の講義内容について、２０００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 第６回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間
第6回	**リチャードソンとフィールディング：小説技法の比較、これまでの振り返り** ・リチャードソンとフィールディングの語りの技法のメリット、デメリットについて学びます。 ・第１～５回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。	『トリストラム・シャンディ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第６回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第7回	**展開期①：ローレンス・スターン『トリストラム・シャンディ』（1759―67）と観念連合** ・近代小説が勃興した以降の小説の展開を見ていきます。 ・メタ小説とよばれる作品『トリストラム・シャンディ』の内容と、スターンの経歴について学びます。 ・メタ小説とは何かを理解します。	『オトラント城』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第７回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第8回	**展開期②：ホレス・ウォルポール『オトラント城』（1765）とゴシック・リバイバル** ・ゴシック・ロマンスというジャンルの流行について学びます。 ・ゴシック・ロマンスの火付け役であるウォルポールの経歴と、その作品について学びます。	『フランケンシュタイン』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第８回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第9回	**展開期③：メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)と女流作家**	第５～９回の講義内容について、２０００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。第１０回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間

	・ゴシック・ロマンスの流行と『フランケンシュタイン』の関連性を学びます。 ・メアリー・シェリーの経歴とその作品の関係について学びます。		
第10回	**ゴシック・ロマンスとオースティン：小説というジャンル意識の確立、これまでの振り返り** ・ゴシック・ロマンスの流行とオースティン作品の関連性について学びます。 ・第６～９回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。	『ノーザンガー・アビー』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第１０回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第11回	**円熟期①：ジェイン・オースティン『ノーザンガー・アビー』(1818)とパロディ意識** ・近代小説の母と呼ばれるオースティンの経歴と作品について学びます。 ・ゴシック・ロマンスという形式とオースティンの作風との関連性について学びます。	『高慢と偏見』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第１１回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第12回	**円熟期②：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』（1813）と中産階級意識** ・オースティンの代表作『高慢と偏見』の内容を学びます。 ・オースティンが確立した自由間接話法という小説技法について学びます。	『ジェイン・エア』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。 第１２回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第13回	**円熟期③：シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847）と結婚制度** ・小説というジャンルが確立した以降の発展を辿っていきます。 ・自伝的小説といわれる『ジェイン・エア』とシャーロット・ブロンテの経歴について学びます。 ・小説のテーマ性というものが生まれてきた過程を辿ります。	『嵐が丘』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第１３回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第14回	**円熟期④：エミリ・ブロンテ『嵐が丘』（1847）とロマン主義** ・シャーロット・ブロンテの妹、エミリ・ブロンテの生涯唯一の作品を読みます。 ・エミリ・ブロンテとロマン主義の関連性について学びます。 ・『嵐が丘』における小説のテーマ性の追求について学びます。	第１～１４回の講義内容について、それぞれ３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。最終の論述型レポートのために復習しておきます。	4時間